マイクロコンピューター搭載。どこまで進化するのかラジオカセット。

メタル&フェザータッチ

TRK-8800 ¥84,800

●高級デッキなみの操作感覚フェザータッチ ●2モーターシステムが可能にした高精度回転ワウ・フラッター0.06%(W.R.M.S) ●メタルテープの性能をフルに引き出すメタル対応ヘッド搭載 ●曲の頭出し思いのまま、繰り返し聞けるリピートデジタル選曲機構 ●テープを初めから終わりまで繰り返し自動演奏するオートリワインドプレイ機構

●2ウェイ・4スピーカーシステム(16cmウーハー×2+5cmツイーター×2) ●実用最大出力10W(5W+5W) EIAJ/DC ●大きさ 幅55.6×高さ31.8×奥行17.3(cm) ●重さ 8kg(乾電池含む)

★選曲のために、曲と曲との間に3秒間以上の無信号部分が必要です。

品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI RADIO CASSETTE RECORDER

上手に使って上手に節電

HINT

くらしを豊かに…
「日立新技術シリーズ」
日立の新技術・新アイデアから生まれた代表商品です。このエレクトロニクスの基本技術は、日立カセットレコーダーに共通して生かされています。

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111
日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)503-2111

お求めは、お手軽なお支払い 日立のクレジット

●日立カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。●日立カセットレコーダーには保証書がついています。ご購入の際には必ず記入事項をご確認のうえ、お受取りになり大切に保存してください。

★ご購入金額から頭金を差引いた金額が1万2千円から100万円までの場合、クレジットがご利用いただけます。
★商品のお問い合わせ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。

全日本女子の新陣容決まる

加藤、松下ら姿消す

アジア・ナンバーワンの座奪回に燃える全日本女子チーム（55年度ナショナルチーム）の陣容が明らかとなった。

8月11日から茨城県岩井市（日本ビクター）で行われた今年度第1次強化合宿に集合した29名（GK4、FP25）である。

新ナショナルで注目されるのは大幅な若返りだ。

キャリアの上で、もっとも長い島田（日立）にしても、ナショナル歴がやっと3年（公式国際試合出場8回）。

13人の初参加者を加えて、心気一転のムードがうかがわれる。

中心となっているのは、予想どおり、今春4月の中国遠征メンバー（本誌184号参照）で、池田鉄哉監督は「若い割には、チームとしての基盤はある程度できている」という。

また、13人のルーキーのうち7人が昨冬の第2回世界ジュニア選手権代表選手だけに、「代表チームとしての重み、責任感」は、すでに知りつくしている。

当初の予定では、この29人の選手は「ナショナル候補」ということで、第1次合宿のあと、20～22名程度にしぼられて発表されるハズだったが、チーム内の競争を高めるため、有望選手を広い範囲で集めてしぼりこみたい、などの点から、ノミネート全員が、ナショナルとして活動することになった

ライバル・韓国も、名手李相玉らのナショナル勇退が伝えられているだけに、両国若手が、このあと、来年度下半期に予定される第8回世界女子選手権アジア予選（詳細未定）までに、どこまで成長するか、大いに注目される。

なお、今回発表された29名は、最年少が竹内（ブラザー工業）の35年11月生れとあって、全員、来年の第3回世界ジュニア選手権出場資格はない

昭和55年度女子ナショナルチーム

▽ＧＫ

氏名	年齢	所属	身長	全日本入り
山本　一枝	（21才・	ジャスコ）	167cm	55年3月
矢部登茂子	（20	ジャスコ）	172	54年6月
梅野　康子	（21	大崎電気）	162	初
井村文光子	（20	立石電機）	170	53年11月

▽ＦＰ

氏名	年齢	所属	身長	全日本入り
島田さゆり	（22	日立栃木）	171	52年6月
毛塚　純子	（21	日立栃木）	162	初
水上　清美	（21	日立栃木）	166	54年6月
大高　良子	（20	日立栃木）	175	初
横山　澄江	（23	ジャスコ）	159	初
若田貴美子	（22	ジャスフ）	161	53年11月
辻本　典子	（21	ジャスコ）	168	初
山本二三代	（20	ジャスコ）	161	55年3月
植田　和子	（22	ブラザー工業）	155	55年3月
則武美智子	（21	ブラザー工業）	167	初
山村　雅子	（20	ブラザー工業）	159	55年3月
竹内　保子	（19	ブラザー工業）	162	初
染谷　保子	（23	日本ビクター）	165	53年11月
伊藤　珠美	（21	日本ビクター）	160	53年11月
岩城　由江	（21	日本ビクター）	161	初
桑原　広子	（22	立石電機）	163	53年11月
姫野五十鈴	（21	立石電機）	154	55年3月
薮田　典子	（20	立石電機）	165	初
西　　典子	（22	大崎電気）	168	54年6月
石井美沙子	（21	大崎電気）	167	初
陽田伊都子	（22	大崎電気）	159	初
八木千津子	（21	北国銀行）	155	55年3月
寺西富美枝	（21	東京重機工業）	170	55年3月
石田　成子	（22	ムネカタ）	157	初
千原　彰子	（21	大和銀行）	170	初

・右欄年月は全日本入りを示す。

姿消したモントリオール組

ところで、今回の新陣容発表でいわゆる〈モントリオール組〉が一人もリストから居なくなった。

モントリオール・オリンピックで5位入賞をはたした栄光のプレイヤーは12名このうち加藤、穂積（ともに日本ビクター）、松下、河田（ともにジャスコ）が、前年度まで頑張り、モスクワ予選を戦い抜いたが、ついに姿を消した。

松下、加藤それに紀野（立石）らは、ホームチームでは、今シーズンもプレーをつづけるようで「ナショナルとしても充分な戦力」といわれているが、コーチングスタッフは、2年後（世界選手権）、4年後（ロサンゼルス・オリンピック）を考慮して、あえてはずしたようだ。

この機に、改めて、全日本女子の声価を内外に高めた加藤、松下らの健闘に賞讃の拍手を贈りたい

一方、ナショナルチームに併行して、女子ジュニアナショナル（第3回世界女子ジュニア選手権候補選手）のノミネートも進んでいるが、8月14日からの強化合宿では、実業団系の14選手が集合しただけに留り、学生界と、実業団の一部の選手が大会出場などのため不参加だったことから、コーチングスタッフは、栃木国体（10月13～17日）後に、名簿を正式発表する、としている。

なお、池田監督らコーチングスタッフの熱望する「高校優秀選手」のノミネートは、学業との関連などから、実現までには手まどりそうだ。

日本協会の今後の努力に期待したい。

◇　◇　◇　◇　◇　◇

『ハンドボール』55年9月号（第189号）目次

【表紙写真】全日本高校選手権女子決勝、優勝した市邨学園（愛知）の攻撃。対徳山高（山口）【スポーツイベント提供】

小倉西、川口工をかわし栄冠

～第31回全国高校総体～

女子は市邨がタイトル

昭和55年度全国高校総合体育大会・高松宮賜杯第31回全日本高等学校ハンドボール選手権大会は、8月2日より8月7日の6日間、宇和島市宇和島東・南両高校特設グランドで男女96チームを迎えて熱戦が繰り広げられた。

男子は小倉西が準々決勝で優勝候補と目された中大附に圧勝し、余勢をかって決勝で川口工をやぶり勝利を得た。女子は今大会連勝の小松市女が準々決勝で徳山に敗れ、ベスト入りできなかった。決勝は市邨徳山の対戦となったが、市邨が確実に得点を決め徳山を寄せつけなかった。

〈男子〉

▽1回戦

川口工（埼玉）32（18―5、14―5）10 土佐（高知）

川口工は立ち上がりから、多彩な攻めで着実に加点。土佐も守りが弱く、攻撃もミスが目立ち大差となった。

瓊浦（長崎）15（9―3、6―10）13 羽水（福井）

瓊浦のペースで前半を折返した後半羽水よく追い上げをみせたが前半のミスがたたった。

松山北（愛媛）22（12―8、10―13）21 佐賀農（佐賀）

松山北は5―0と好スタートをしたが、佐賀農に残り3分で同点と反撃されたが、タイムアップ寸前に速攻で逃げこんだ。

明石（兵庫）20（10―10、10―8）18 青森商（青森）

互角の序盤からしだいに明石の早い攻めが優位となったが、青森のねばりもよく、好試合だった。

水島工（岡山）24（11―5、13―5）10 池田（徳島）

立ち上がりは互角だったが、しだいに水島工が好守備から試合を支配し、一方的に押し切った。

前橋商（群馬）22（14―2、8―8）10 柏崎工（新潟）

前商ペースで折返し、柏崎は後半になりようやくテンポをつかみ最後まで頑張ったがとどかず。

真室川（山形）12（6―3、7―9）12 松本美々ケ丘（長野）

実力伯仲、勝負のかかった後半一進一退の好試合、松本の追い上げも波が遅すぎた。

前原（沖縄）26（12―8、14―24）24 大曲農（秋田）

身長に勝る大曲はセットを組み攻めるが単調で、走りに速い攻めをみせた前原に屈した。

松江工（島根）14（7―6、7―6）12 四日市工（三重）

互角の戦況から、後半15分まで一進一退、スカイプレーなど多彩の攻めで松江は四日市の目先きを変えて逃げきった。

氷見（富山）24（11―7、13―11）18 日川（山梨）

日川は11―7の差を後半の立ち上り追い込みはしたが、氷見の早いテンポの攻めに押し切られた。

釧路湖陵（北海道）15（10―3、5―7）10 境港工（鳥取）

コンビネーションプレーに秀れた釧路は巧みに境港を自分のペースに巻き込み快勝した。

法政二（神奈川）12（6―6、6―4）10 熊本マリスト（熊本）

前半6―6と互角で折返し、後半先攻する熊本を逆転した法政は優位に立ち追い上げを振切った。

盛岡第一（岩手）14（8―2、6―6）8 足利工（栃木）

走りと早いテンポの盛岡は着実に加点すれば、足利工は動きが固く後半終了真近で追い上げたが時遅しであった。

小倉西（福岡）34（14―10、20―8）18 一宮（愛知）

一宮は守りが弱く攻めも単調に対し小倉はよく走り、守り、早い攻めで一気に押し切った。

小松工（石川）22（9―3、13―12）15 東山（京都）

小松は立ち上りからよく走り、速攻・ロングで得点、守っても好連けいで東山を寄せつけなかった。

小林工（宮崎）15（7―4、8―8）12 岐阜商（岐阜）

小林工のポストプレーが冴え、岐阜の堅いディフェンスをゆさぶり着実に加点、岐阜も終盤の追い込みも時遅く勝を逸した。

川口工・春の覇者岩国を降す

▽2回戦

川口工 20（11―5、9―6）11 岩国工（山口）

立ち上りから、速攻、PTで川口ペース。追い込む岩国も攻めに精彩を欠き、川口の快勝。

清水市商（静岡）20（10―5、10―4）9 瓊浦

互角の戦況は序盤だけ、速攻とロングで加点する清水はペースをつかみ、一気に押し切った。

松山北 25（14―9、11―12）21 高松商（香川）

多彩な攻めで松山加点し優位に立てば、後半10分過ぎより連続6点と猛追する高松前半の失点がたたる。

明石 11（5—6 6—3）9 市川（千葉）

出型のチーム、互いに良く走った明石は後半7分逆点したが、攻め口に一つ冴えず点差で逃げ切った。

水島工 25（14—4 11—6）10 奈良工（奈良）

奈良は固さが目立ち内容に乏しかった。一方水島はスピードある展開で圧勝した。

前橋商（群馬）24（8—11 16—5）16 南薩工（鹿児島）

前半11—8と差をつけた薩南は後半攻守が甘くなり、前橋にあっさり逆転された。

岩井（茨城）22（9—2 13—9）11 真室川

岩井が終始リードし楽勝、真室川はパスミスが目立ち、内容に乏しかった。

前原 16（7—7 9—5）12 桃山学院（大阪）

実力伯仲の好試合。迫力のある多彩の技の出し合い。勝負は終了5分前に前原のシュート力で振り切った。

大分電波（大分）26（14—6 12—7）13 松江工

大分は早いテンポの攻めで押しまくれば、松江は散発的に得点、ゲームの盛り上げに欠けた。

氷見 30（15—6 15—9）15 八幡工（滋賀）

氷見のローリング戦法に守りのタイミングを乱されPT、カットインを許した八幡苦戦で敗る。

新居浜工（愛媛）14（5—2 9—7）9 釧路湖陵

両チーム攻めあぐね単調なペース。後半になり新居浜はポストプレーとGK好守で快勝。

仙台育英（宮城）15（5—12 10—2）14 法政二

前半12—5と一方的プースで楽勝かに思われたが仙台の速攻・セットが冴え法政に逆転勝。

学法石川（福島）18（11—5 7—6）11 盛岡第一

GKの巧守と速攻で加点する石川も後半ペースダウン。その機を盛岡必死に追うが力及ばず敗る。

小倉西 22（11—6 11—8）14 御坊商工（和歌山）

個人技のある小倉、機動力ある御坊、互いによく走ったが、小倉ペースで圧勝。

小松工 20（9—9 11—8）17 修道（広島）

実力伯仲9—9と後半に勝負を期した。修道は好機にスカイミスで自滅。小松は手固く加点し勝った。

中大附（東京）21（7—8 14—4）12 小林工

前半両チーム迫力に欠けた試合展開だったが、後半中大附ロングと速攻でリードし大勝した。

地元、松山北・新居浜工・善戦

▽3回戦

川口工 23（12—4 11—9）13 清水市商

清水のラフな守りを突いて優位に立った川口は、多彩な攻めとGK巧守で、清水を寄せつけず、猛追の清水も前半の失点がひびき息切れで終る。

松山北 28（13—11 11—13 2—1 2—2）27 明石

明石の速い動きとポストプレーに松山のロングシュートの応戦で一点を争う好試合。延長に入り松山のロングシュートとポストが有効に得点に結びつき、勝利を修める。

前橋高 23（13—8 10—10）18 水島工

両チーム気合いの入った良い攻守、立ち上りからスピーディな見応えのある試合だった。前橋のGKの攻守からの速攻をまじえ終始リードをし水島の追撃をけった。

前原 14（5—7 9—3）10 岩井

岩井9—5のリードも、ラフプレーで自滅、後半11分には逆転を許し前原ペース、追撃のチャンスもGKの好守に勝機を逸した。

大分電波 22（13—9 9—4）13 氷見

大分は早いボール回しで全員が良く動き多彩の攻撃で加点すれば氷見もローリングの中央突破で機を狙ったが、大分の詰めの早い好守に逢い涙した。

新居浜工 21（12—9 9—6）15 仙台育英

立ち上り互角から、御居浜のカットインを守備の荒さでPTを許し、主導権を取られた仙台は、後半必死に追うが、ボールの離すタイミングを読まれることが多く、リズムを断たれた。

小倉西 22（10—8 12—7）15 学法石川

10—8と2点差でくいさがり、後半に夢を託した石川は、焦りが先立ち精彩を欠いた。小倉はGKの巧守とスピードある展開で確実に加点、石川を寄せつけなかった。

中大附 28（13—9 15—9）18 小松工

前半ペースを握った中大附は多彩な展開を操り出せば、小松も力あふれるプレーで対抗した。両チームGKの好守で試合も盛り上ったが試合運びに一日の長のある中大附が実力を発揮した。

小倉西・中大附を圧倒

▽準々決勝

小倉西 28（15—10 13—8）18 中大附

【小倉】	得		【中附】	得
山田	0	GK	山口	0
山口	0	GK	山片	0
小柳	1	FP	長坂	9
米沢	3		大木	4
清家	8		江沢	2
加納	2		小山	2
角野	7		下野	0
水之江	7		田中	1
中井	0	（審・大塚 千野）	坂井	0
森本	0		永井	0
内藤	0		佐藤	0
渡辺	0		堀	0
28	（3）	PT	（1）	18

力対技の対決、早い動きと堅いディフェンスで優位に試合展開した小倉。二人の長身選手をもつ中大附は、攻めが単調ではあったがチャンスを確実に加点した。小倉の技が中大附をくだした。（松原）

川口工 32（20—8 12—6）14 松山北

【川工】	得		【松山】	得
羽深	0	GK	宮内	0
早川	0	GK	富成	0
金丸	4	FP	浜田	3
田村	3		大本悟	2
藤代	1		村上	3
長谷部	7		大西	1
畑山	0		久保田	1
渡辺	4		東福	4
綿引	8	（審・大宮 光島）	佐田	0
藤井	2		大本修	0
池田	2		松原	0
佐藤	1		平松	0
32	（5）	PT	（0）	14

川口の多彩のコンビは攻守に一層の冴えをみせ松山を寄せつけず20—8のワンサイドで後半に持ち込んだ。松山も気をゆるめず健闘するが、余裕の出た川口の前に完敗した。（玉田）

前橋商 19（9—11 10—7）18 前原

【前原】	得		【前橋】	得
東恩納	0	GK	滝原	0
比嘉	0	GK	笹沢	0
兼本	6	FP	小林	4
天原	0		安藤	3
栄門	1		関口	3
新崎	3		金沢	5
翁長	0		金井	1
浦崎	0		黒沢	0
上原	4	（審・千野 大塚）	古平	0
仲真次	1		前田	0
兼島	0		早川	3
糸満	3		瀬尾	0
18	（3）	PT	（0）	19

前原が先手先手とリードしながら11—9で前半を終了。後半開始後、前原のミスを前橋が得点に結びつけ、7分に同点に追いついてからは前橋ペースとなり残り2分3点差で勝負有、前原もよく頑張ったが今一歩追いつけなかった。

（松原久士）

大分電波 17（8—5 9—7）12 新居浜工

【大分】	得		得	【浜工】
為木	0	GK	0	星加
堀	0	GK	0	牧野
松岡	4	FP	0	佐伯
清水	1	FP	0	村上
三宅	0	FP	1	横山
園田	2	FP	5	鈴木
二宮	6	FP	0	真砂
工藤	2	FP	3	岡部
大塚	0	FP	1	神野
朝生	2	FP	2	石川
海江田	0	FP	0	伊藤
駒水	0	FP	0	高岡
17	（2）	PT	（2）	12

（審・光島 大宮）

互角の序盤・激しい攻防で互いに得点に結びつかず攻め倦ねていたが、走力とカットインに冴えをみせる大分が8—5とリードで折り返えす。新居浜は態勢を立て直し追い上げをみせたが、大分のGKに度々のチャンスを好守された

九州・関東同士で準決勝へ

▽準決勝

川口工 25（9—5 7—11 … 5—0 4—1）17 前橋商

【前橋】	得		得	【川工】
滝原	0	GK	0	羽深
笹沢	0	GK	0	早川
小林	3	FP	3	金丸
安藤	2	FP	3	田村
関口	6	FP	0	藤代
金沢	3	FP	7	長谷部
金井	0	FP	0	畑山
黒沢	0	FP	4	渡辺
古平	1	FP	6	綿引
前田	0	FP	2	藤井
早川	2	FP	0	池田
瀬尾	0	FP	0	海老原
17	（2）	PT	（4）	25

（審・玉田 松原）

川口はPTを含め4点先取し優位に展開していたが、後半10分過ぎ前橋はGKの好守から速攻で加点又サイド攻撃も機を得て、連続6点連取し猛攻一分前には同点に追いつき延長。延長に入るや川口は一気にスパート、多彩の攻めと固い守りで危気なく前橋を圧勝した。

（大宮）

小倉西 22（9—7 13—9）16 大分電波

【小倉】	得		得	【大分】
山田	0	GK	0	為末
山口	0	GK	0	堀
小柳	2	FP	0	松岡
米沢	3	FP	1	清水
清家	11	FP	0	三宅
加納	1	FP	2	園田
角野	2	FP	7	二宮
水之江	3	FP	1	工藤
中井	0	FP	0	大塚
森本	0	FP	5	朝生
宮武	0	FP	0	釘宮
鍋内	0	FP	0	海江田
22	（4）	PT	（3）	16

（審・光島 大宮）

相手の手の内を知っての対戦、互角の攻守で好ゲームが展開され2点小倉リードで後半へ。小倉はコンビプレーが冴えて有利に試合を進めれば、大分もサイドからポストからと目先きを変えての追い上げも15分まで、退場者を出してからは小倉のワンサイドを許し完敗した。

▽決勝

小倉西 14（6—6 8—5）11 川口工

【小倉】	得		得	【川工】
山田	0	GK	0	羽深
山口	0	GK	0	早川
小柳	1	FP	1	金丸
米沢	1	FP	3	田村
清家	5	FP	0	藤代
加納	1	FP	4	長谷部
角野	5	FP	0	畑山
水之江	1	FP	3	渡辺
中井	0	FP	0	綿引
森本	0	FP	0	藤井
内藤	0	FP	0	池田
渡辺	0	FP	0	海老原
14	（3）	PT	（3）	11

（審・大塚 千野）

久方ぶりの屋外試合で両チーム共元気なく、単調な攻めで前半10分経過しても1—1、単発に打つシュートが決まり6—6で勝負を後半に持ち越した。後半になってからも一点を追うシーソーゲームであったが両チーム精気なく、持ち前の走りが単調であった中で、小倉はGKの巧守を期に速攻で残り5分3点差にして幕を引いた。決勝戦としては凡戦であった。

（松原久士）

女子

▽1回戦

大津商（滋賀）10（5—2 5—3）5 筑紫女（福岡）

大津のサイドブロックプレーが冴え、着々と加点し、主導権を握った。一方、筑紫はシュートミスで自滅してしまった。

昭和学院（千葉）9（6—4 3—2）6 有磯（富山）

先手を取った昭和に、必死に追う有礒はあせりでボールが手につかず苦戦して敗れた。

徳山（山口）4（0—1 4—1）2 春日丘（大阪）

固さがほぐれず両チーム前半を切戦としたが、速攻に勝る徳山がペースをつかみ逃げきった。

群馬女短附（群馬）13（9—0 4—5）5 三本松（香川）

群馬の出足よい守備と多彩の攻めで三本松を完封。後半三本松の追い上げも力足らずに終った。

大正（高知）15（8—4 7—7）11 松江第一

立ち上がり一進一退の好展開、大正のポスト攻撃が冴え優位に立つ。後半互いに速攻で応戦するが前半のリードを保ち逃げ切る。

明倫（神奈川）14（8—5 6—6）11 岐阜商（岐阜）

明倫は前半の好調を巧く持ちこんで有利に試合を進めた。岐阜はミスでペースがつかめず終った。

釧路商（北海道）8（3—4 3—2 … 2—0 0—1）7 小林商（宮崎）

激しいせり合い、互いに譲らず延長、小林の退場者が出た折に2点連取、追いすがる小林を振り切り勝負を決めた。

川口北（埼玉）11（4—6 7—4）10 暁（三重）

6—4暁リードを川口速攻から劣勢を挽回、後一点を争う好ゲーム、川口相手ミスを得点し逃げ切る。

山陽女（広島）11（5—2 6—4）6 国学院栃木（栃木）

脚力とディフェンス力に勝る山陽の快勝、国学院固さが抜けぬまま、単調な攻めで終る。

花巻南（岩手）13（6—3 7—2）5 池田（徳島）

互いに速いパスワークからの得点、後半追放のミスで苦戦する池田、優位の花巻着実に加点した。

大分東（大分）16（8―5 8―3）8 西大寺（岡山）

熱戦を展開したのは立ち上りだけ、大分よく走り確実に得点一方的な試合展開をした。

長沼（福島）10（4―4 6―4）8 東宇治（京都）

前半互角、後半長沼GKの好守と速攻で加点、巧みに東宇治を自分のペースに巻き込み快勝。

水海道二 17（11―3 6―5）8 佐久（長野）

多彩の攻めの水海道に対し、佐久単調の攻めで水海道の守りを崩すだけの力に欠けた。

青森西（青森）16（11―1 5―1）2 倉吉西（鳥取）

青森の伸び伸びしたプレーで一気に点差を離した。倉吉は単調な攻めが多すぎた。

拓大第一（東京）15（6―3 9―4）7 前原（沖縄）

拓大の走力、気力勝ちの試合、一時は前原に追いつかれたが、速攻とロングで快勝した。

仁愛女（福井）14（4―3 4―5 …… 2―1 4―0）9 粉河（和歌山）

粉河の激しい追い上げで延長、仁愛はフェントからのシュートでペースをつかみ一気に押し切った

山陽女・新居浜市商の古豪敗退

▽2回戦

小松市女（石川）15（7―3 8―4）7 大津商

多彩な攻めの小松に対し、守りに今一つ力不足の大津は苦戦した

昭和学院 14（5―1 9―3）4 清水市商（静岡）

好調のすべり出しを見せた両チームだったが、昭和学院は走りと堅い守りで快勝した。

徳山（山口）16（9―0 7―1）1 新潟江南（新潟）

前半零封された新潟、後半も立ち上りを見せる機もなく、徳山の速攻をはじめ多彩な攻めの前に屈した。

群馬女短附 10（4―3 6―5）8 国分実業（鹿児島）

大型チームの対戦、ロングの打ち合い一進一退の好ゲーム。群馬終盤気力で逆転逃げ切った。

大正 16（7―9 9―4）13 伊予農（愛媛）

大正の先行を調子を上げ逆転した伊予も後半に入りペースを乱し大正の前に力つきた。

明倫 19（11―4 8―5）9 佐世保商（長崎）

走力、シュート力で上まわる明倫は常に優位を保ち、佐世保の追撃を振り切った。

釧路商 15（7―2 8―5）7 添上（奈良）

攻守に勝る釧路は、カットインやブロックプレーで活路を探す添上の芽を封じて快勝した。

秋田和洋女（秋田）7（2―0 5―6）6 川口北

秋田のGKの攻守に阻れ、零封された川口、後半必死の追い込みも秋田のペースにはまり自滅した

夙川学院（兵庫）8（4―2 4―4）6 山陽女

好カードは夙川のシート力の差で勝負が決まった。山陽は単調な攻めになりすぎた。

花巻南 11（4―6 7―2）8 神崎農（佐賀）

後半逆転した花巻は、ポストプレー、速攻で巧みに神崎をペースに巻き込んで快勝。

大分東 18（11―6 7―7）13 米沢女（山形）

攻守に勝る大分は立ち上りから優位を取った、米沢は後半の調子をもっと早く出したかった。

日川（山梨）6（2―4 4―0）4 長沼

遅攻の展開の中数少ないチャンスを加点しあう凡戦、後半日川は切れの良いカットインで押し切った。

水海道二 14（7―3 7―3）6 新居浜市商

新居浜の先行は序盤だけ、水海道は多彩の攻めで差を拡げた、新居浜も元気あふれる好チーム。

松橋（熊本）17（7―1 10―4）5 青森西

青森のミスをついて、松橋の速攻が冴え、ソツなく得点を上げた

涌谷（宮城）9（5―4 2―3 …… 2―1 0―0）8 拓大第一

涌谷の立ち上り4点連取で有利に試合を進めたが、拓大も良く追い上げ延長。拓大の浮き足立った守りをつき涌谷PTとカットインで加点拓大を突き放した。

市邨学園（愛知）24（12―2 12―5）7 仁愛女子

出足快調で一気に仁愛を突き放した市邨は、後半仁愛の立ち直りを寄せつけなかった。

関東の雄・明倫PTCで敗退

▽3回戦

小松市女 12（4―3 8―4）7 昭和学院

互いにフリスローから加点。一進一退の好試合。昭和は凡ミスが続き加点チャンスを失えば、小松はロングで着実に加点した。

徳山 11（6―3 5―3）6 群女短附

動きの速い徳山とセット攻撃の群女は徳山の走り勝でリードを拡げた。

夙川学院 12（5―3 7―4）7 花巻南

両者互角に渡り合っていたが、夙川の攻守が勝り試合の主導権を握った。花巻の2本のPTミスは追い上げの期を乏った。

大正 9（5―2 3―6 0―1 1―0 PTC 2―1）9 明倫

5―2大正ペースかと思われたが明倫後半追い上げ逆転。逃げきり寸前に大正得点。延長も互角でPTCで大正勝利を修めた。

秋田和洋女 10（2－4 6－4 … 1－0 1－0）8 釧路商

釧路の左腕に手こずり、持ち前の速攻も出ず苦戦の和洋も、後半に入り相手ミスをつき逆点をしたが、釧路もサイド攻撃で追い延長PTで和洋からくも逃げきった。

日川 15（5－2 10－4）6 大分東

日川は大分の動きをよく読み、攻守に確実なプレーを行なった。大分はミスでリズムを切り自滅。

水海道二 15（8－6 7－3）9 松橋

後半5分松橋同点に追いつくが度々の水海道GKの好守で加点できず、水海道はソツなく加点した

市邨学園 19（9－4 10－5）9 涌谷

涌谷はディフェンスのつめが甘く市邨に多彩な攻めを許し苦戦して終った。

小松市小ベスト4入りならず

▽準々決勝

徳山 6（4－2 2－1）3 小松市女

得	【小松】		【徳山】	得
0	吉田	GK	大石	0
0	中山	GK	安堂	0
0	中田	FP	久保	0
0	沢田	FP	森	1
0	高田	FP	五嶋	0
0	藤田裕	FP	栗田	2
0	藤田祐	FP	寺西	2
0	竹	FP	藤田	1
0	太田	FP	和西	0
0	川端	FP	福田	0
3	高木	FP	原田	0
0	中川	FP	岡村	0
3	(1)	PT	(0)	6

（審・松尾 福田）

徳山のGKの巧守とディフェンスの良さは、小松にスキを与えなかった。前半3－2とするPTを失敗し小松はペースを徳山に渡してしまった。（狩野幸介）

大正 9（5－4 4－4）8 秋田和洋

得	【秋田】		【大正】	得
0	鈴木	GK	吉良	0
0	金	GK	谷脇	0
2	佐川	FP	平野	4
1	小松	FP	小野川育	2
2	若松	FP	三谷	1
1	北川	FP	伊賀	0
0	相川	FP	岡本	0
1	角田	FP	武石	2
1	村井	FP	平野	0
0	堀岡	FP	小野川仁	0
0	桜庭	FP	森	0
0	船木	FP	土居	0
8	(2)	PT	(0)	9

（審・中所 古富）

両チーム共シュートミスが多く前半一進一退、大正GKの攻守もあり一点差で勝負を後半に持ち越した。後半互いによく走った好試合だがあと一つ決定的なものがなく終った。（岡村）

夙川学院 13（5－2 8－1）3 日川

得	【日川】		【夙川】	得
0	丸山	GK	藤本	0
0	三森	GK	斉藤	0
1	佐藤	FP	若水	1
1	佐野	FP	李	4
0	日原	FP	塩谷	0
0	沼田	FP	秋成	6
1	雨宮	FP	北山	1
0	河野	FP	茂山	1
0	岸本	FP	牧野	0
0	樋口	FP	市岡	0
0	青柳	FP	林	0
0	保坂	FP	赤葉	0
3	(0)	PT	(1)	13

（審・松尾 福田）

夙川の防御の良さと走り勝ちで日川を圧倒した。日川は単調なシュートで苦戦した。夙川の一方的勝利であった。（狩野幸介）

市邨学園 18（11－5 7－9）14 水海道二

得	【市邨】		【水海】	得
0	木村	GK	松本	0
0	野口	GK	中山	0
5	寺沢	FP	原田	1
2	稲垣	FP	信原	0
0	倉地	FP	小島	0
2	鷲野	FP	文随	0
4	坪井	FP	宮本	2
1	岩佐	FP	川旗	0
4	近藤	FP	飯野	1
0	関	FP	小口	6
0	松村	FP	石塚	0
0	村田	FP	下条	4
18	(6)	PT	(3)	14

（審・中所 古富）

市邨は前半からお落着いた練磨されたスピードあるチーム力で加点すれば、固さの見られる水海道は後半必死に追い上げたが、前半の失点が大きく、善戦はしたものの差がつまらなかった。好ゲームだった。（岡村久）

徳山、善戦の大正を制す

▽準決勝

徳山 20（10－1 10－2）3 大正

得	【大正】		【徳山】	得
0	吉良	GK	大石	0
0	谷脇	GK	安堂	0
1	平野	FP	久保	3
0	小野川育	FP	森	2
0	三谷	FP	五嶋	4
2	伊賀	FP	栗田	4
0	岡本	FP	寺西	2
0	武石	FP	藤田	4
0	平野	FP	和西	0
0	小野川	FP	福田	1
0	森	FP	原田	0
0	土居	FP	岡村	0
3	(0)	PT	(1)	20

（審・千野 大塚）

大正の浮き足立った攻守をつい一方的に加点する徳山に、大正は圧倒され予想外の大差がついた大正は疲れが出たのか。前日までの動きが出し切れず、ディフェンスに後手になった。（古富 博）

市邨学園 17（7－4 10－8）12 夙川学院

得	【市邨】		【夙川】	得
0	木村	GK	藤本	0
0	野口	GK	斉藤	0
5	寺沢	FP	若水	4
1	稲垣	FP	李	1
0	倉地	FP	塩谷	0
2	鷲野	FP	秋成	4
6	坪井	FP	北山	3
1	岩佐	FP	茂山	0
2	近藤	FP	牧野	0
0	関	FP	市岡	0
0	村田	FP	赤葉	0
0	森	FP	斉藤	0
17	(2)	PT	(1)	12

（審・中所 古富）

序盤両チーム固さがみられ、凡ミスが目立ったが、夙川の先行で試合展開を市邨10分過ぎからロングや速攻で加点しペースを握った後半も市邨はチャンスを確実に得点し、FP全員得点の快挙をなした。夙川の後半の激しい追い上げも時すでに遅く惜しまれる。（松原久士）

▽決勝

市邨学園 14（7－4 7－2）6 徳山

得	【市邨】		【徳山】	得
0	木村	GK	大石	0
0	野口	GK	安堂	0
4	寺沢	FP	久保	1
3	稲垣	FP	森	0
0	倉地	FP	五嶋	0
2	鷲野	FP	栗田	3
0	坪井	FP	寺西	1
2	岩佐	FP	藤田	1
3	近藤	FP	和西	0
0	関	FP	福田	0
0	村田	FP	原田	0
0	森	FP	岡村	0
14	(2)	PT	(1)	6

（審・松尾 福田）

開始2分市邨のポストで均衡を破った。長身者の多い市邨は多彩な攻めでチャンスを確実に得点しペースを握る、一方徳山は食い下りはしたものの決勝戦を意識したのか凡ミスが多く得点に結びつけることができずワンサイドを許した。（松原久士）

日韓高校

関東勢男女とも健闘実らず

男子第14回（女子第7回）日韓高校交歓大会は、韓国ナンバーワンの男子・東亜高（釜山）、女子・全南体育高（光州）を招いて、8月17日東京で南関東選抜（東京、千葉、神奈川、山梨連合）が、19日浦和で北関東選抜（埼玉、群馬、栃木、茨城連合）が対戦して行われた。

インターハイを終えたばかりの関東勢は、闘志を燃やしての迎撃だったが、韓国両校は、秀れた個人技をチームプレーにまとめて連勝。日本勢は男子が第8回（昭48）以降女子が第4回（昭52）以降の無勝利に今夏も終止符を打つことができなかった。

通算成績は、男子が36戦8勝24敗2分、女子が14戦3勝11敗とかわった（杉山）

◆**第1戦**（8月17日・東京体育館観衆千八百）

▽男子

東亜（韓国）27（15—10、12—13）23 南関東高校選抜

○…南関東が後半10分すぎ3点連取で19—16とした時はリズムに乗ったとみえたが、東亜も粘り17分21—21。こうなると朴、沈の個人技をもつ東亜が早い仕掛けから射って出てリードを奪い、守ってもGK南の沈着なプレーで失点を最少限に留め、20分23—22から3点連取で南関東を突き放した。16ゴールをあげた朴の柔軟な攻撃がきわ目立った。

▽女子

全南体育高（韓国）17（10—6、7—7）13 南関東高校選抜

○…勝負は最後の5分で決まった。金美淑の好配球から金貞任、申が疲れのみえた相手守備網を切り崩したもので、南関東もこの間に二度ほど絶好機があったがパスミスで逸し、善戦に留った。

◆**第2戦**（19日・浦和市民体育館観衆八百＝満員）

▽男子

東亜 27（15—6、12—11）17 北関東高校選抜

○…インターハイ準優勝の川口工を主力とした北関東は、金丸の巧技などで一歩も引かず、一時は久々の勝利さえ期待されたが、後半5分14—13のあと追加点がなくそこを東亜の直線攻撃につけこまれ、あっという間に9失点、押し切られた。北関東の拙功というより、東亜GK・南の巧さを賞したい。

東亜FPのフェイント技術、ジャンプ力、スタミナは、日本チームにないもので、力の差を感じさせた。東亜は日本戦6連勝。

▽女子

全南体高 17（10—1、7—3）4 北関東高校選抜

○…平均身長で7㎝ほど高い全南は、プレーに余祐があり、前半8分6—0と早くも主導権。

北関東はクイックパスで、相手の守りをゆさぶろうとするのだが金美淑に巧く守備陣をまとめられて、突入できなかった。

(注)個人テーブル中の数字は身長

得	【東亜高】	男子①	【南関東高校選抜】	得
0	南白鎬(180)	GK	山口(中大付・178)	0
0	朱烘昊(180)	GK	辻(日川・176)	0
2	李戊桂(174)	FP	長坂(中大付・189)	0
1	韓永吉(172)	FP	大木(中大付・185)	0
1	呉世勲(178)	FP	内藤(駒大高・184)	4
2	崔末定(171)	FP	谷口(駒大高・177)	9
0	鄭淳珍(175)	FP	小山(中大付・177)	1
16	朴秉洪(177)	FP	塚田(駒大高・175)	1
0	李栄澈(178)	FP	高山(市川・175)	0
5	沈禎萬(185)	FP	田中(中大付・171)	6
0	朴永坤(175)	FP	近藤(明星・165)	0
0	辛栄錫(175)	FP	中村(横浜商工・162)	2
27	(4)	PT	(1)	23

（審・島田、後藤）

得	【全南体高】	女子①	【南関東高校選抜】	得
0	丁美光(164)	GK	浜野(千葉和洋・162)	0
0	鄭根愛(171)	GK	吉永(拓大一・160)	0
3	金貞任(166)	FP	中島(藤村女・160)	0
0	孫美愛(164)	FP	青木(藤村女・153)	0
2	金貴順(171)	FP	下平(藤村女・162)	1
1	禹暎淑(164)	FP	小池(拓大一・152)	1
0	金福礼(166)	FP	鈴木(千葉和洋・153)	1
4	金美淑(167)	FP	山崎(千葉和洋・160)	2
6	申貞淑(163)	FP	一の瀬(明倫・167)	4
1	金順心(166)	FP	伊藤(明倫・162)	0
0	崔永娘(166)	FP	佐藤(日川・167)	3
0	李愛子(164)	FP	雨宮(日川・160)	1
17	(5	PT	(1)	13

（審・三枝、槇田）

得	【東亜】	男子②	【北関東高校選抜】	得
0	南伯鎬	GK	羽深(川口工・176)	0
0	朱洪昊	GK	高橋(川口北・181)	0
8	朴秉洪	FP	金丸(川口工・167)	4
6	沈禎万	FP	田村(川口工・176)	3
3	呉世勲	FP	渡辺(川口工・183)	3
5	李戊桂	FP	吉田哲(浦和実・176)	0
3	崔末定	FP	伊藤(浦和実・168)	5
2	鄭淳珍	FP	吉田治(川口工・170)	0
0	李栄澈	FP	細目(埼玉栄・185)	2
0	韓永吉	FP	加藤(足利工・175)	0
0	朴永坤	FP	佐藤(下仁田・180)	0
0	辛栄錫	FP	川上(土浦一・178)	0
27	(5)		(2)	71

（審・大塚、北井）

得	【全南】	女子②	【北関東高校選抜】	得
0	丁美光	GK	宮島(川口北・162)	0
0	鄭根愛	GK	葛生(藤岡・165)	0
1	金順心	FP	青木(川口北・162)	0
4	禹暎淑	FP	樋浦(川口北・159)	0
4	金貞任	FP	田村(川口北・156)	0
1	金福礼	FP	稲垣(川口北・157)	0
0	金貴順	FP	高橋裕(川口北・149)	1
2	崔永娘	FP	高橋洋(浦和西・150)	0
1	申貞淑	FP	山本(群短大・171)	0
3	金美淑	FP	林(下仁田・160)	2
1	孫美愛	FP	森田(栃木女・165)	1
0	李愛子	FP	諸岡(麻生・156)	0
17	(3)	PT	(0)	4

（審・岡本、清水）

〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃 抜群のセンス示した金美淑

□…男子の朴秉洪と沈禎万がナショナル候補、女子の金美淑がナショナル、禹暎淑がジュニア・ナショナルと4人の韓国高校界の代表的選手が顔をみせたが、なかでも金美淑は2年生ながら今年6月ナショナル入りした逸材。（昨秋のオリンピック予選に出場した金美淑とは別人）

小学校6年の時からハンドボールに本格的に取り組んでいるというだけあって、視野の広いプレーなど攻守に抜群のセンスを示し、日本の関係者をうならせた。

「八二年の世界選手権とロサンゼルス・オリンピック両方ともぜひ出たい」といったあと「絶対出ます」と〝訂正〟。韓国女子界の意気そのままのたのもしさだった

実連ジュニア、恒例の合宿

全日本実連は、第8回実連ジュニア合宿が8月28日から31日まで国内実業団各チームから推せんされた30名の若手によって、福島県の陸上自衛隊福島駐とん地で行われた。

この合宿は、実連の恒例事業で加盟チームから22才未満の3選手（以内）を集めて行われているものである。

大阪イーグルス,「10年連続」の偉業

大阪イーグルスがついに10連覇の偉業を遂げた。――第23回（女子第8回）全日本教職員選手権は8月8日から12日まで滋賀県彦根市で行われた。

44チーム参加の男子は，大阪イーグルス×栃の葉ク（栃木）が2年連続決勝カードとなり栃の葉クがいちどは主導権を握ったが，イーグルスは驚くべき粘りで逆転，10年連続16度目の優勝を飾った。10チーム参加の女子は栃の葉女子ク（栃木）が2連勝。

女子は栃の葉　全日本教職員選手権

▽男子1回戦

愛知教員AFT 26（12—12、14—7）19 長崎教員

三重教員A 26（14—8、12—9）17 群馬教員

大阪ハンターズ 19（11—3、8—6）9 広島教職員

千葉教職員クラブ 16（9—6、7—5）11 三重ガラストーズ

愛知教員B 29（13—7、16—7）14 長野教員

熊本教員 29（13—12、16—12）24 ロイヤルスワロー

埼玉教員クラブ 34（18—7、16—5）12 福岡教員

静岡県教員団 36（21—7、15—12）19 島根教員

東京教員 17（9—8、8—5）13 愛知教員C

京都教員 21（10—9、11—8）17 岐阜教員

佐賀教員 27（4—3 PTC、1—3、3—1、9—9、10—10）26 山口教員B団

愛知教員A 23（6—4、17—15）19 奈良教職員

▽男子2回戦

大阪イーグルス 27（16—4、11—5）9 愛知教員AFT

三重教員 26（12—13、14—7）20 岡山教員

神奈川県教員A 36（18—1、18—8）9 静岡教員クラブ

大阪ハンターズ 29（17—3、12—8）11 新潟教員

大阪教員クラブ 29（17—5、12—5）10 千葉教職員クラブ

滋賀教員 35（19—7、16—3）10 山口県教員団A

千葉教員 27（15—7、12—8）15 愛知教員B

熊本教員 33（19—14、14—9）23 山梨教員

スワロー兵庫 17（12—8、5—8）16 埼玉教員クラブ

静岡県教員団 22（12—12、10—3）15 オールドイーグルス

宮崎教員 40（22—5、18—5）10 和歌山教員クラブ

東京教員 24（4—2、5—2、9—8、6—7）19 福井教員

香川教員 31（13—16、18—11）27 京都教員

富山教員 27（19—7、8—5）12 神奈川教員B

佐賀教員 24（12—11、12—6）17 茨苑ク（茨城）

栃の葉ク（栃木）28（16—5、12—7）12 愛知教員A

▽男子3回戦

大阪イーグルス 24（12—3、12—4）7 三重教員A

滋賀教員 19（12—10、7—7）17 大阪教員

スワロー兵庫 26（15—7、11—5）12 静岡県教員団

富山教員 24（12—8、12—13）21 香川教員

神奈川教員A 32（18—8、14—7）15 大阪ハンターズ

千葉教員 30（16—13、14—6）19 熊本教員

宮崎教員 26（17—4、9—12）16 東京教員

栃の葉ク 24（14—7、10—10）17 佐賀教員

▽男子準々決勝

大阪イーグルス 29（15—5、14—3）8 神奈川教員A

スワロー兵庫 20（11—7、9—9）16 宮崎教員

千葉教員 15（6—6、9—7）13 滋賀教員

栃の葉ク 25（10—7、15—10）17 富山教員

▽男子準決勝

大阪イーグルス 22（10—4、12—7）11 千葉教員

得	【大阪】		【千葉】	得
0	本田	GK	釜谷	0
2	高橋	FP	松原	0
2	源野	FP	増田	2
0	足羽	FP	八重盛	0
4	大西	FP	上坂	0
0	河原崎	FP	佐藤	2
1	福井	FP	浅原	2
12	辻本	FP	氷海	3
0	三谷	FP	仲田	1
1	勝本	FP	山上	1

（審・華立、堀崎）

22（3）PT（0）11

○…千葉教員のスローペースのゲーム展開、イーグルスの速攻と対称的な両チームであったが、脚力を生かした速攻でイーグルスの一方的な試合となった。中でもイーグルスの⑩辻本が12得点をあげる活躍であった。

栃の葉ク 25（13—11、12—7）18 スワロー兵庫

得	【栃葉】		【スワ】	得
0	高橋	GK	松野	0
0	岩下	GK	馬場	0
2	川田	FP	松岡	5
2	河先	FP	阪本	0
8	中山	FP	西川	1
0	山本	FP	浜田	2
0	大出	FP	森本	0
1	小西	FP	岸本	0
1	越前	FP	工藤	6
5	滝口	FP	大西	3
3	松井	FP	荒井	1
3	名嘉	FP	松森	0

25（5）PT（4）18

★男子優秀選手

GK　松野富幸（スワロー）

FP　中山富夫（栃の葉ク）
松井幸嗣（栃の葉ク）
大西和雄（イーグルス）
辻本孝仁（イーグルス）
浅原利治（千葉教員）
船木浩久（宮崎教員）

○…栃木の先行で始まったあと両チーム緊迫したゲーム運びとなったが、スピードの勝る栃木が残り10分すぎから徐々に点数を重ね5点差をつけて前半を折り返した後半に入って互解の戦いとなったが、スワローの凡シュートが目立つところを栃木が逆速攻に走り順当勝ちした。

▽男子三位決定戦

千葉教員 17（10—12、7—4）16 スワロー兵庫

得	【千葉】		【スワ】	得
0	釜谷	GK	松野	0
2	松原	FP	馬場	0
2	増田	FP	松岡	6
1	八重盛	FP	阪本	1
2	土坂	FP	西川	1
0	佐藤	FP	浜田	0
3	浅原	FP	森本	0
1	氷海	FP	岸本	1
6	仲田	FP	工藤	0
0	山上	FP	大西	4
		FP	荒井	3
		FP	松森	0

（審・藤本、島崎）

17（1）PT（2）16

○…千葉の先行でゲームが始まった。前半15分まで千葉は再三ノーマークシュートのチャンスがありながらスワローのGK松野の好守にはばまれ得点できず、ようやく15分すぎから4点連取して3点差とした。スワローは千葉の堅い

DFを攻めあぐみわずか4点に終った。後半に入りスワローは②松岡を中心にロングシュートがよく決まり、10分すぎ逆点するもすぐに再逆点された。残り2分すぎ同点のチャンスとなるPTをはずし逆にPTをとられ2点差とされ1点返すも今一歩及ばなかった。

▽男子決勝

大阪イーグルス 20（11－11、9－8）19 栃の葉ク

【栃葉】		得
GK	高橋	0
FP	岩下	0
	川田	2
	河先	0
	中山	5
	山本	0
	大出	0
	小西	0
	越前	1
	滝口	3
	松井	6
	名嘉	2

【大阪】		得
GK	本田	0
FP	高橋	3
	源野	3
	足羽	0
	大西	2
	河原崎	2
	福井	2
	辻本	6
	三谷	2
	勝本	0

（審・新村、井上）

20（2）PT（2）19

○…両チーム共スピードのある試合運びで見ごたえのあるゲーム展開となった。栃の葉先行で前半スタート。6点までリードしそのまま波に乗るかと思われたが、大阪はGK本田の好キープから徐に追いあげ、栃の葉残り10分無得点の間に逆転し1点で前半終了。

後半に入ると互解の戦いとなりシーソーゲームとなるも10分すぎから栃の葉のミスが目立つところを大阪が速攻に走り5点差まで広げたが、栃の葉もよく粘り1点差まで追いあげたが今一歩届かなかった。この試合両チームで退場6入という荒いDFが目立ち、大阪はベンチ警告という場面が見られ一考を要する。

〃〃〃〃〃〃

史上2番目の快挙

□…大阪イーグルスが、ついに10連覇（49戦49勝）をやってのけた。

同一全国大会でこの快挙は、全日本実業団選手権男子における大崎電気（埼玉）につづいて二番目のものである。

一口に10年といっても、それはなみたいていの努力では生まれない記録だ。

ましてや、大阪イーグルスはクラブチームなのである。

歴代メーバーに共通しているのは、当然のことながら「ハンドボールの熱狂的愛好者」なこと。

教職員界は、どちらかといえばそうした「虫」たちの集りだが、他チーム関係者も「イーグルスの連中のハンドボール好きには…」と舌をまき、しゃっぽを脱ぐ。

「おめでとう」といった月並みな挨拶ではすまされぬ大仕事を大阪イーグルスは仕上げたのである

◇　☆　◇　☆　◇　☆　◇

栃の葉、大阪破り2連勝

◆女子▽1回戦

風見鶏ク（兵庫）7（3－1、4－2）3 埼玉白小鳩ク

武蔵野ク（東京）9（5－2、4－6）8 熊本教員

▽女子2回戦（＝準々決勝）

栃の葉ク（栃木）13（8－5、5－6）11 風見鶏ク

桜球会（富山）7（2－2、5－4）6 東花ク（東京）

大阪教員 22（9－3、13－7）10 愛知教員

武蔵野ク 20（10－5、10－9）14 神奈川教員

▽準決勝

栃の葉ク 21（7－8、14－5）13 桜球会

【桜会】		得
GK	堀田	0
FP	田嶋	0
	寺脇	1
	豊本	5
	青木	1
	林	0
	嶋田	3
	梶村	0
	大房	3
	黒岩	0

【栃葉】		得
GK	稲葉	0
	大森	0
FP	坂本	3
	梅山	2
	峰岸	1
	森戸	14
	高久	0
	秦	1

（審・遠藤、金子）

21（3）PT（3）13

○…栃の葉スローオフ直後PTにより先取点をあげたあと富山もすぐ同点に追いついた。栃木3点リードするも徐々に富山が追いつき残り1分で逆点し1点差で前半終了。後半栃の葉はミスの多くなった富山を多彩な攻撃で再逆点しそのままふり切った。栃の葉は⑪番森戸が14得点という活躍であった。

大阪教員 22（11－5、11－3）8 武蔵野ク

【武蔵】		得
GK	高橋	0
FP	奥富	0
	戸栗	0
	星野	0
	奈倉	3
	芳賀	0
	山本	5
	一宮	0

【大阪】		得
GK	片山	0
	中村美	0
FP	南出	1
	秦	0
	矢野	3
	岩本	2
	秋田	2
	小西	4
	大谷	0
	小倉	2
	池渕	7
	中村典	1

（審・梅山、旅）

22（1）PT（4）8

○…前半大阪が足を生かした攻撃で得点を重ねたのに対し、武蔵野は大阪のうまいDKの前に足が止まり単発の3点に終わる。後半に入って武蔵野はノーマークシュートを再三に渡り大阪GK片山に好守され、もたつくところを一気に攻め圧勝した。

▽三位決定戦

桜球会 16（10－4、6－11）15 武蔵野ク

【武蔵】		得
GK	高橋	0
FP	山崎	0
	奥富	4
	戸栗	0
	星野	0
	奈倉	5
	芳賀	2
	山本	0
	一宮	4

【桜球】		得
GK	堀田	0
FP	田嶋	2
	寺脇	2
	豊本	3
	林	0
	嶋田	3
	梶村	0
	大房	6
	黒岩	0

（審・遠藤、金子）

16（2）PT（1）15

○…前半武蔵野は主将一宮を中心に着実に加点し前半5点差をつけて終了。後半10分間互角の戦いのあと武蔵野の雑な攻撃を桜球会がパスカット、シュートカットを速攻に結びつけ7点連続ゴールをあげて逆転勝利を収めた。

▽決勝

栃の葉ク 15（10－7、5－7）14 大阪教員

【大阪】		得
GK	片山	0
	中村美	0
FP	南出	0
	秦	0
	矢野	2
	岩本	1
	秋田	1
	小西	6
	大谷	0
	小倉	0
	池渕	4
	中村典	0

【栃葉】		得
GK	稲葉	0
	大森	0
FP	坂本	7
	梅山	2
	峰岸	1
	森戸	4
	高久	1
	秦	0

（審・杉本、吉田）

15（1）PT（1）14

○…栃木が森戸のステップシュートで先取点をあげたあと両チームスピードのある試合運びとなったが、大阪のDFのすきをついて森戸、坂本のステップシュートがよく決まり3点リードで前半終了。

後半に入って互角の戦いとなったが、大阪は残り分足の止まった栃木を1点差に追いあげ残り30秒カットからの速攻をミスして栃木が辛くもにげ切った。

▽女子優秀選手

GK	稲葉 安子	（栃の葉）
FP	秋田 正子	（大　阪）
	池渕 澄江	（大　阪）
	坂本 喜美	（栃の葉）
	森戸由起子	（栃の葉）
	山本 一枝	（武蔵野）
	大房恵美子	（桜球会）

1979

昭和54年度から"より大きな補償"の保険になります

スポーツ団体だけでなく 子ども会，婦人団体，地域のクラブ等の方々も 10名以上のグループで，ご加入になれます

●保険料，保険金額は(お一人につき)

区分		保険料	死亡・後遺障害保険金額	医療保険金額	
				通院中	入院中
第1種	A	340円	12,000,000円 後遺障害の支払いは3%～100%	日額 1,000円 支払限度日数 90日	日額 1,500円 支払限度日数 180日
	B	400			
	C	680			
第2種	A	9,600			
	B	3,200			
	C	1,600			

(注) 特に希望がある場合は，保険料，保険金額が上記の半額になるS型の加入も可能です。

●第1種，第2種ABCの区分は次のとおりです。

区分		内容
第1種	A	スポーツ少年団，子ども会，こてきバンドなどの幼少年グループ
	B	PTA，旅行同好会，万歩クラブなどで文化活動，奉仕活動，軽スポーツなどを行う団体
	C	ママさんバレー，早起き野球などの地域スポーツ団体
第2種	A	山岳会，スキンダイビング，リュージュなど
	B	スキー，ラグビー，サッカー，柔道，ボクシング，空手，馬術など
	C	卓球，テニス，陸上，水泳，軟式野球，バレー，ボート，体操競技など

●体協公認等の指導者も10名以上まとまった場合は第1種Cで加入できます。また，指導する団体の一員としても加入できます。

●適用の範囲(担保条件)は

○加入者の所属する団体の管理下における活動中の事故。
○団体が指定する集合，解散場所と加入者の住所との通常の経路往復中の事故。
○ただし学校管理下(学校安全会の給付対象内)における事故は不担保。

●保険期間

毎年4月1日より翌年3月31日まで。ただし，中途加入でも翌年3月31日までです。(申込は3月1日から受付ます)

●加入申込み，資料の請求，お問合せは……

スポーツ安全協会各都道府県支部(主として教育委員会保健体育課にあります)，東京海上火災の営業店にご照会ください。

(財)スポーツ安全協会
東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館
電話 467−3111(代) 直通460−6263

プレス・ルーム ＜26＞

杉山　茂
――(ＮＨＫ運動部)―

■大正の活躍伝えた「高知新聞」

今夏の全日本高校選手権（宇和島）を彩った話題の一つとして、女子・大正（高知）のベストフォア進出をあげていいと思う。

かつて、全日本男子のコーチングスタッフにも加わったことのある細木建夫氏(日体大出)が、4年前から、若い情熱のすべてを注ぎこんで鍛えあげたチーム。

すでに四国では強力チームの一つに数えられているようだが、全国的には、まだノーマーク。

それだけに、今回の躍進は、いささか上位陣固定化の高校界に新風を吹きこんだ。

同時に注目されたのは、大正の活躍を伝える「高知新聞」の取扱いだ。

勝ち進むごとにスポーツ面の大半のスペースが、同校の健闘で占められ、3位入賞の翌日は、ほぼ全面が、彼女たちのニュースで埋めつくされた。

日本のハンドボールが、オリンピックなり世界選手権でメダルを手にしても、ここまでの扱いをうけるかどうか分からない、といえるほどのものだ。

例えそれが、全国紙でなく、中央のスポーツ紙でなくとも「ハンドボール」が大々的にとりあげられるとは嬉しいではないか。

もちろん、今回は、大正の頑張りが最大の因だが、僕の経験からすれば、日頃、高知協会の地元マスコミに対する力のつくしかたが上手なことも根底にあるような気がする。

「中国新聞」や「熊本日日新聞」「京都新聞」「神奈川新聞」「北国新聞」なども、ハンドボール記事の大きな新聞だが、これは、これらの地元協会のマスコミ対策がふだんから上手なのである。

日韓高校埼玉大会前後の「埼玉新聞」も、かなりの扱いで、実際僕も会場へ行って、埼玉協会の人たちの手配りのよさが目についた。

こうした努力は地味だし根気がいる。

「マスコミ対策はどうしたらよいか」と、よく地方協会のかたにたずねられるが、僕の答えはいつも一つ。「自分たちの事業（主に試合）をていねいに報せること」つまり〈協力度〉だ。

そして、どんなに扱いが小さくても、毎回きちんと伝達する習慣が欲しい。

記事の大小はマスコミ側が決めること。これはという成果をあげれば、日頃の努力も手伝って、必ずや大きな扱いをしてくれる。

地方協会の姿勢に比べて、最近の日本協会のマスコミ対策は低調すぎる。ここらで反省しないと、手の施しようがなくなる〝危険〟さえある。

■金成憲氏（韓国）との再会

4年ぶりで日韓高校交流が関東地域で開かれた。

久々の、という興味もあったが東亜高のコーチとして金成憲氏が来ている、というのも、僕にとって大きな興味だった。

彼を最初にみてから、もう9年になる。

当時――ミュンヘン・オリンピックを前にした日本ハンドボール界の売りものの一つに、野田清選手（現・大同特殊鋼監督）のアクロバット・シュートがあった。

右サイド、ほとんど無角度から空間に身を躍らせ、逆さまに近い応勢からシュートを射つプレーはヘーダ・シュートとしてヨーロッパでも話題を集めた。

その高等テクニックを、韓国の高校選手がいともあっさりとやってのけたのだ。

46年8月に来日した東亜高の金成憲選手である。

以来、彼は長身の車聖福とともに、あらゆる日韓交流で姿を見せ日本チームの警戒を集めた。

成均館大在学中、そして卒業後彼はつねに韓国側の主力アタッカーであった。

3年前の第1回アジア選手権（クウェート）を最後に、現役を退いた金成憲氏は、母校・東亜高のコーチになり〝初来日〟したわけである。

選手時代、無口にみえた彼は、ベンチで、実に精力的に動き、ほとんどのプレーに声を掛けていたのには驚ろかされた。

その態度から厳しいコーチにみえたが、選手たちは、まったく素直に、金コーチの指示に従っていた。

「金コーチの指導に頼っていれば間違いない」――そんな信頼感がうかがえたし、自から試合前の練習で手本を示すパスの多彩さとパスワークも、相変らず鮮やかなものであった。

彼のことをまったく知らない日本の高校生がスタンドで「みろよあのコーチ、すごくうまいぜ」といっていた言葉を耳にして、僕は思わずニヤリとしたものだ。

東京と浦和で、それぞれ5分ほどだったが彼に会えた。

ベンチとはちがい、彼は9年前に会ったと同じように、ややはにかみながら、言葉少なな青年として現れた。

童顔の彼が、一つだけ顔を引き締め語ってくれた言葉が印象に残る。「韓国と日本の男子の差はまだかなりあります。力の上で5年ほど開いている感じです。

でも、5年経ったら追いつける気がします。また、そうなりたいと思ってます。韓国ハンドボール界は5年計画でこの夢を果たす努力を始めました……」。

9月21日から第5回日本リーグ

第5回日本リーグが9月21日開幕する。

全国の愛好者を沸かす日本リーグは、5年目を迎え、トップクラスを揃えた男子6、女子8チームによって、9月21日から11月30日までの13日間19会場で激戦をくりひろげる。（10月前半は栃木国体で中断）

モスクワ・オリンピックが予定されていたために、男女とも1回総当りと、スケールという点ではやや淋しいが、各チームとも、充分な補強と練習量によって、内容的には、過去4回よりも、はるかに高いものが期待できる。

日本リーグ運営委員会では、8月22日全スケジュールを発表したが、リーグの話題を探ってみた。

なお、2部（男子6、女子3＝2回戦制）も、同時期に行われる。

□優勝争い・男子

今年も大同特殊鋼(愛知)、湧永薬品（広島）のつばぜり合いだろう。

本田技研鈴鹿(三重)、日新製鋼(広島)の充実もあるが、やはり二強の総合力を押しのけるには、あと一つ迫力に欠ける。

本田は、11月上旬に湧永(沖縄)大同(岐阜)と連戦するが、この日程が逆で、最初に大同と顔合せしていたら、あるいはとも思う。

今年に入って本田は大同に1勝1分（2月15—15、5月14—11）と、相手側に主力欠場があったものの大同攻略法に一つの手がかりをつかんだ感じだからだ。

それが、苦手・湧永との対戦が先になり、この一戦を落すようだと、案外あっさり、大同戦も退いてしまうようなことになりはしないか。

本田にとって、というよりリーグ全盤の盛り上りからも湧永×本田戦は大きなポイントとなろう。

年ごとに着実なチーム力アップを示す日新は、Aクラス入りを目指して闘志満々。

洞ケ瀬の復調と吉見（早大）の加入は、目標達成にこの上ないプラス材料だ。

さて、3連覇を狙う大同、そうはさせじという湧永。

両チームとも、全日本選手を主力にほとんど異動のない陣容を誇るが、強引に予想を立てると、湧永にチャンスの芽が多いといえる。

一つには、主力攻撃陣のイキのよさという点で、湧永に軍配があがるからだ。

蒲生、大原という国際級アタッカーをもつ大同だが、他の選手にやや鋭さが欠けはじめてきている。

その点、湧永は、山本、穂積、津川、松本が円熟期、池の上、生駒、志賀が乗りに乗っている。

なかでも左腕・池の上の破壊力増大は、リーグの焦点といってもよい。

大同が、全日本実業団—ブルギー遠征（リエージュ国際参加、既報）—栃木国体とビッグイベントを連続させるのも、目に見えぬ負担となる心配がある。

ダークホース視される大阪イーグルス、三陽商会（東京）は「一つでも多く勝ち点を」と狙うが、1回総当りの短期決戦だけに、上位クラスにじっくり構えられるといささか苦しい。

両チームとも、照準を日新、本田技においているようなので、この4チームのかみあいは、壮烈なものになりそうだ。

日新、本田としては「上ばかり見ていられない」ということになる。

予断まったく許さず

□優勝争い・女子

大変な激戦。2連勝を狙うジャスコ（三重）、全日本実業団優勝（5月）の日本ビクター（茨城）を双璧にして立石電機(熊本)、大崎電気（埼玉）の復調、日立栃木(栃木)の進境、ブラザー工業（愛知)の攻撃力は、予断を許さない。

攻守のバランスという点からすればジャスコだが、実業団選手権でみせたような波の激しさがある。

ビクターは、ここへ来てエースアタッカー・穂積が家庭の事情で帰郷、リーグ出場が難しいと伝えられているうえ、180cmの大器・池田(有)もメンバーからはずれているようだ。

二強に安定感がないとあれば、立石以下にも、充分チャンスが廻ってくる。

立石は、紀野のカムバック、木下（武庫川女大の加入）でチームに待望の柱ができた。

こうなれば、井監督のベンチワークは定評があるだけに、第1回以来の優勝をもぎとることも夢ではない。

大崎は、なんといっても8月からのルーマニア・ユーゴ遠征が好材料だ。チームとしてのまとまり自信、周囲の理解に対する責任感などが好作用することは間違いない。

しかも、開幕戦が日本ビクターというのは興味深い。

問題は、ヨーロッパ帰りのコンディショニングだろう。

日立の前評判も高い。地元国体という他チームにない刺激剤があるだけに、選手の意欲はなみなみならぬものがあり、国体—日本リーグと一気に二冠獲得を狙うほどの闘志で、開幕を待ちわびている。

ブラザーは主力の退陣で弱体化が心配されたが、若手の急成長でダークホースと目されるまでに盛り上ってきた。

特に攻撃力はバラエティに富み「昨年以上」と評価する人もいるほどだ。

この6チームの間隙を狙う北国銀行(石川)、東京重機(東京)も、かなりチーム力が整備されている。

有望新人が顔を並べる

□初の女性監督も

湧永・木野実、本田技・佐藤要二、三陽・吉近充洋、日ビ・池田二三恵、北国・小西昭夫と5チームの監督が新任した。

木野、佐藤は前オリンピック選手、佐藤はプレイ兼任で頑張る。

かつて立教大黄金時代を築いた木野と大同・野田清監督が、ライバルチームに分かれてのさい配はみもの。

池田二三恵さんの監督もビッグニュース。ハンドボールはもちろん、他球技の日本リーグでも「女性監督」は初めて。

発表と同時にNHKニュースセンター9時をはじめ、マスコミの取材がつづいている。

□即戦力のルーキー

今季も各チームに有望なフレッシュマンが顔を並べているが、即戦力として話題を集めているのは男子では坂本（日体大—本田技）吉見(早大—日新)、飯田（日体大—大阪)、山口（日大—三陽)女子では渡辺(太田二高—日ビ、GK)手打(小松市女—日立)、木下（武庫川女大—立石）らだ。

このうち渡辺は、6月の全日本実業団選手権で最優秀新人に選ばれており、どこまで成長しているか。

学生界から久々に日本リーグ入りした木下もスケールの大きい攻守が魅力だ。

男子の4選手は、日本リーグの活躍しだいでは、ナショナルにもノミネートされようという好素材の的。

□個人賞レース

最優秀シュート率、最多得点、最多PT得点などの個人賞をめぐるレースも、愛好者にとって興味の的。

シュート率は、男子は制定後3年間、松本（湧永）が独占しており、4年連続成るかが話題。追うのは今年も柳川実（大同）か。

女子は、毎年伏兵がとび出しており、優勝争い同よう予断を許さない。

最多得点は、男子は、よほどのことがない限り蒲生(大同)の4年連続だろう。ダークホースに大原(大同)、山本、池の上（ともに湧永)。

女子は島田(日立)を一番手に、松下（ジャ)、木下（立石)、竹内(ブエ)、水上(日立)、桑原(立石)西(大崎)、八木(北国)、植田（ブエ）らがひしめく。

□2部に拾う

去年から本格的に発足した2部は、男子が大崎電気(埼玉)、三景(東京)にトヨタ車体（愛知）がからむ。

女子は大和銀行(大阪)、ムネカタ（福島）の旧1部勢が、和歌山県商工信用組合（和歌山）をおさえて首位争いを演じよう。

◇…2部日程…◇

（男子）大崎電気×自衛隊勝田、三景×日鉄建材、トヨタ車体＋セントラル自動車（11月1日・ブラザー工業体育館）

セントラル自動車×大崎電気、トヨタ車体×三景、自衛隊勝田×日鉄建材（11月2日・ブラザー工業体育館）

大崎電気×トヨタ車体、自衛隊勝田×三景、日鉄建材×セントラル自動車（11月3日・ブラザー工業体育館）

トヨタ車体×自衛隊勝田（11月9日・長岡市原生会館）

セントラル自動車×三景（11月15日・栃木市総合体育館）

日鉄建材×大崎電気（11月16日・坂戸市民体育館）

自衛隊勝田×セントラル自動車（11月23日・水海道二高体育館）

三景×大崎電気（11月23日・郡山総合体育館）

トヨタ車体×日鉄建材（11月29日・呉市体育館）

〔女子〕ムネカタ×和歌山県商工信用組合①（9月28日・彦根市民センター）

大和銀行×和歌山県商工信用組合①(10月26日・京都府立体育館)

和歌山県商工信用組合×大和銀行②（11月1日・ブラザー工業体育館）

和歌山県商工信用組合×ムネカタ②（11月2日・ブラザー工業体育館）

大和銀行×ムネカタ①（11月3日・大阪市中央体育館）

ムネカタ×大和銀行②（11月23日・郡山市総合体育館）

第5回日本リーグ全日程

◇……1　部……◇

・9月21日（日）
（女）日本ビクター—大崎電気（13：40　旭川市総合体育館）
大同特殊鋼—三陽商会（15：40　〃　）

・9月27日（土）
（女）ブラザー工業—立石電機（14：00　石川県体育館）
本田技研鈴鹿—大阪イーグルス（15：15　〃　）
（女）日立栃木—北国銀行（16：40　〃　）

・9月28日（日）
（女）ジャスコ—東京重機（15：10　彦根市民センター）
湧永薬品—日新製鋼（16：20　〃　）

・10月26日（日）
（女）ブラザー工業—東京重機（13：00　佐久市総合体育館）
（女）日本ビクター—北国銀行（14：30　〃　）
日新製鋼—大阪イーグル（14：35　京都府立体育館）
（女）立石電機—日立栃木（16：00　〃　）
（女）大崎電気—ジャスコ（15：00　徳山市体育館）
湧永薬品—三陽商会（16：15　〃　）

・11月2日（日）
（女）ジャスコ—立石電機（13：00　沖縄市営体育館）
本田技研鈴鹿—湧永薬品（14：30　〃　）

・11月3日（祝）
（女）東京重機—日本ビクター（12：30　高岡市民体育館）
日新製鋼—三陽商会（13：40　〃　）
（女）日立栃木—大崎電気（15：00　〃　）
（女）北国銀行—ブラザー工業（14：40　大阪市中央体育館）
大阪イーグルス—大同特殊鋼（15：50　〃　）

・11月9日（日）
（女）ジャスコ—日立栃木（13：00　岐阜県民体育館）
（女）ブラザー工業—日本ビクター（14：10　〃　）
大同特殊鋼—本田技研鈴鹿（15：20　〃　）
（女）立石電機—東京重機（12：30　長岡市厚生会館）
（女）大崎電気—北国銀行（15：20　〃　）

・11月15日（土）
（女）ブラザー工業—大崎電気（14：50　栃木市総合体育館）
（女）日立栃木—東京重機（16：00　〃　）
（女）立石電機—日本ビクター（14：00　四日市市体育館）
（女）ジャスコ—北国銀行（15：10　〃　）
本田技研鈴鹿—三陽商会（16：20　〃　）

・11月16日（日）
（女）東京重機—大崎電気（時間未定　坂戸市民体育館）
大同特殊鋼—日新製鋼（　〃　）

・11月22日（土）
大阪イーグルス—湧永薬品（14：00　熊本市体育館）
（女）立石電機—北国銀行（15：30　〃　）

・11月23日（祝）
（女）ジャスコ—ブラザー工業（10：00　水海道二高体育館）
（女）日本ビクター—日立栃木（11：10　〃　）

・11月29日（土）
（女）大崎電気—立石電機（14：20　呉市体育館）
本田技研鈴鹿—日新製鋼（15：30　〃　）
（女）東京重機—北国銀行（16：00　東京体育館）
三陽商会—大阪イーグルス（17：10　〃　）
（女）日本ビクター—ジャスコ（18：30　〃　）

・11月30日（日）＝最終日
（女）日立栃木—ブラザー工業（11：00　名古屋市体育館）
湧永薬品—大同特殊鋼（12：10　〃　）

★大会ガイド・全日本実業団男子

大同、湧永にからむ本田日新

第21回全日本男子実業団選手権は9月1日から3日まで大阪市中央体育館に国内のトップ9チームが集まりトーナメント方式で争われる。
参加チームは、いずれも日本リーグ加盟チーム（1部5 2部4）、21日から始まる日本リーグ～別掲～の前哨戦としても興味深い。

男子のトップクラスにとって、今年度初のビッグトーナメントだ。モスクワ・オリンピック出場を確信して、すべて下半期に全国大会を集中させていたためだが、モスクワ不参加となり、その分、チームとしては、例年になく練習を積めたことになる。

各チームとも満を持しての登場だけに、充実した内容が期待できよう。

3週後に火ぶたを切る日本リーグとはちがい、一本勝負（ノックアウトシステム）なのも、興をそそる。

今年も、優勝争いの先頭に立つのは、最近6年間連続して、2位を占める大同特殊鋼（愛知）と湧永薬品（広島）だろう。

52年度（第18回）以降、大同、湧永、大同の順で優勝が決まり、今回は湧永に栄冠が舞いこむ番にあたるが、大同は、この大会翌日初のヨーロッパ単独遠征に出発する。ぜがひでもタイトルを握っての鹿島立ち、といきたいところだ。

新主将・大原の功技を軸に蒲生柳川弟、中本ら主力のパワーと、中井、花輪、松原、GK柳川兄らベテランを配した布陣は、相変らずスキがないし、浦田、小野の進境も注目してよいものがある。

準決勝の日新製鋼（広島）戦が日新の充実で油断はできぬとされるものの、まず決勝進出は固いといえる。

湧永に「五輪代表」6人

一方の湧永。木野新監督のもと6人のモスクワ・オリンピック代表を揃えた顔ぶれは〝豪華〟の一語につきる。

昨冬の全日本総合制覇で、大同戦に自信をつけ、今シーズンは、宿願の4大タイトル（全日本実業団、国体、日本リーグ、全日本総合）独占を目指す。

津川、穂積、山本、松本、志賀池之上、生駒、藤本、GK福井というラインアップは、球史に残る〝量と質〟ではなかろうか。

大同との対決は、国際レベルのすさまじい一戦になりそうだが、警戒を要するのは、準決勝の本田技研鈴鹿（三重）戦。

本田技は、エース佐藤が監督兼任となったが、田上、喜井、矢量西田、高橋、佐々木ら主力はほとんど変らず、GKも柴田、大畑の二枚看板が健在である。

実力的には、大同、湧永にまったく、そん色がないだけに、カギは、このチームの弱点とされた「60分間の集中力」が、どこまで自覚されているか、だと思う。

湧永戦を握るようなら、一気に大同も押しつぶしそうな気さえする。木野×佐藤の監督初対戦も話題。

一本勝負活かすか三景、三陽

ダークホースの一番手は日新。シーズン毎に着実に力をつけ、しかも今季は洞ケ瀬の戦列復帰と、吉見（早大）、GK西川（同大）の新加入で、脇若、徳田、泉、吹上、湯中、GK三田らの戦力に厚味ができた。

大同戦は、巨砲蒲生の足の故障が充分でないと、もつれる可能性もでてくる。

このほかでは、やはり三陽商会（東京）。

金子、関、大熊、坪子らに、今季の最有力新人といわれる山口哲（日大）を迎えたのが大きい。

日新戦をとり大同に食い下ればというのが吉近新監督の狙いのようで、日本リーグのトライアルとしてこの大会を据えている。

一本勝負だけに、湧永にぶつかる三景（東京）も面白い。192cmの新人・工藤（法大）を、中馬、山村、鈴木、加藤らの巧者が活かすようだと、去年までとは一味ちがった展開が望める。

大崎電気（埼玉）、日鉄建材（大阪）、自衛隊勝田（茨城）らは、この大会でトップクラスとの差を少しでも縮めておきたいところ。

なお、元全日本の飯田誠行氏を監督に、有力選手を揃えて新発足した中村荷役運輸（東京）は、出場資格がなく、来春2月の全国実業団トーナメント（神戸）まで待機となる。

女子の選手権は6月に終わり日本ビクターが優勝している（既報）

組み合せ

- 大同特殊鋼（愛知）
- 日鉄建材（大阪）
- 自衛隊勝田（茨城）
- 日新製鋼（広島）
- 三陽商会（東京）
- 本田技研鈴鹿（三重）
- 大崎電気（埼玉）
- 三景（東京）
- 湧永薬品（大阪）

1回戦：1日　準決勝：2日　決勝：3日

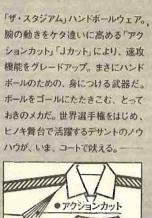
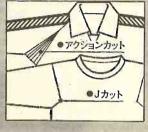
勝ちぬく速攻メカ。

「ザ・スタジアム」ハンドボールウェア。腕の動きをケタ違いに高める「アクションカット」「Jカット」により、速攻機能をグレードアップ。まさにハンドボールのための、身につける武器だ。ボールをゴールにたたきこむ、とっておきのメカだ。世界選手権をはじめ、ヒノキ舞台で活躍するデサントのノウハウが、いま、コートで吠える。——

STUDIUMはデサントの登録商標です。

THE STADIUM®

DESCENTE

《本格派》デサント・ハンドボールウェア「ザ・スタジアム」

がんばれ!ニッポン!
協賛(JOC-G承認109)

JOC-MS-2-80-1
1980 MOSCOW　デサントはアディダス社と共にモスクワ五輪に協力しています。

株式会社デサント

この会のエキジビジョンである女子のゲームが始まった直後、常務理事会を終えて来場した理事長の開口一番の声は「お客の入りが悪いなあ」だった。ところが、それから一時間後、ぞくぞくとつめかけたファンで、ほとんどの席が埋まる状況を見て「よく入ったなあ!!」の言葉に変わったのである。このように、協会関係者の予想を上まわる四千名近くのハンドボールファンの中でメーンの幻の壮行試合の幕が切って落されたのである。

思えば、六月二十一日のこの会は、四月当初、オリンピック選手壮行会と財団設立記念行事とをドッキングさせて、盛大に開催する計画がなされていた。しかも丁度この時期にサウジアラビアのナショナルチームが来日を希望していたので、この際、オイル外交も兼ねたPR作戦で日本のスポーツ界にセンセーションを巻き起こそうと秘かに計画していた。

ところが、斯界にとってあまりにも悲運なオリンピック不参加が決定し、念願だった財団設立が遅れ、しかも、サウジの来日が、突然中止ということになって一瞬にして大きな夢が吹き飛んでしまった感があった。

この様な悲嘆にくれたうちの今回の開催は、思いがけない数多くのファンを迎え、心暖かい、力強い声援に励まされ、悲運の若鷲達は大いにハッスルし、鍛えぬかれた個人技と数々の修羅場を乗り越えた素晴しいチーム力を発揮してファンの声援に充分応え、魅了したのである。

やがて試合が終り、選手達は、流れる汗を拭く間もなく、サイン会に協力してくれた。この時の選手の明るく、さわやかな顔と、女子高校生の「来て良かったネ、又来ようネ」といっていた言葉がこの会のすべてを語っている様で、非常に強く印象に残った。

成功した「オリンピック選手を囲う集い」

北川勇喜
（日本協会企画担当常務理事）

ところで、成功裡に終ったこの会を今一度顧りみると次のことが浮かびあがってくる。

まず、第一に関係者の予想以上にファンが集った要因の第一は、直接悲運な選手達を慰さめ、励まそうとする日本的な心情の現われとオリンピック男子団体種目の中で、我がハンドボールだけが見事出場権を獲得したという誇りが、ファンを会場へと狩り立てたと考えられる。

第二に、ミュンヘンオリンピックの反動で、比較的関心が薄かったモントリオールオリンピックに比べ、理事長自身、モスクワにおける意気込みはすさまじく、ヨーロッパ遠征、中国遠征と陣頭指揮をして勝ち取った成果に、ファンも期待感を持ったのもと思われる。

第三は、竹野監督が、二回のオリンピック体験をもとに、三度目の勝負にかけて構築した蒲生選手を軸にした、パワフルな攻撃力と山本・大原を生かしたスピーディーな戦法は、外国チームには見られない、日本独自のもので、メダルを期待するものが大であった。

第四は、対戦相手の学生選抜チームの主力選手が再三にわたるヨーロッパ遠征で成長し、学生界の黄金時代であった、木野、近森・野田の再来をファンに思い起こさせるものがあり、ムードをよりいっそう盛りあげたものと思われる。

第五は、これまでにはなかったプレゼントコーナー、サイン会の企画がファンの親睦感を一層募る結果を生み、今後の若いファン層への期待感を我々に与え得る力強いものがあった。

もう一方の成功の要因としては、総べて企画部に一任させた荒川理事長始め他の理事の決断によるところが大きい。

何故ならば、この決断により、企画部は、思い切って、オリンピック選手を囲むファンサービスの会としての性格を前面に打ち出し整理券による無料入場プレゼントコーナー、そしてサイン会というこれまでにない企画を盛り込むことが出来、その結果、今後の発展に一筋の光を見い出し、望みを得たハンドボール関係者も多かったことと思われる。

整理券に関しては、協会事務局の方達の御協力、プレゼント品に関しては、強化部総務の杉山茂氏の後尽力により各スポーツメーカーのご好意をいただき、プレゼントコーナー、及びサイン会には、川野監督を通して、選手達の献身的な協力という様な、関係者全員の心をひとつにした熱意が実りこの会を大成功に収めたといえよう。

最後に今回の大会を振りかえってあらゆる点から考えてみると、我々のこれまでの生き方に反省させられることが数多くあると思うが、中でもファンに対するサービスということについては、これからのハンドボールの発展を望むにあたっては、大きな要素ではないだろうか。これまでを思い起こすと、プレーヤーとファンの溝は案外と深く大きなものであった様に反省させられるものがある。やはり、ファンの支持あっての飛躍であれば、我々もより一層の努力をし、子供から老人までの対策を練り、基礎固めという原点に立ち戻り、今後のスポーツ界におけるハンドボールの生き方を熟慮する必要を痛切に感じた次第である。

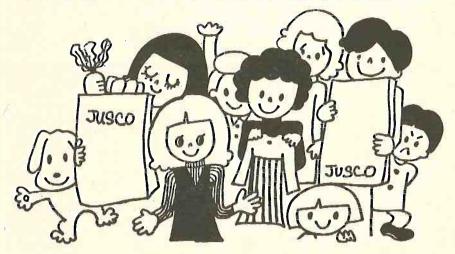
北朝鮮遠征は延期 全日本男子

日本協会は、10月1日から10日まで行う予定だった全日本男子（モスクワオリンピック代表）の初の朝鮮民主々義人民共和国（北朝鮮）遠征を来年度まで延期することを、明きらかにした。

これは、北朝鮮側が9月または10月下旬でないと受けいれられない、としてきたためで。

この結果、男子の55年度ナショナルチームは、早ければ9月下旬に発表される模様。

大崎女子が出発

日本の女子チームとして初のヨーロッパ単独遠征を行なう大崎電気女子（家村一敏団長、谷口俊郎監督ら役員3、選手14）は8月17日午後2時成田国際空港発のソ連航空機でルーマニアに向った。ルーマニアのあとユーゴにも転戦、9月20日帰国の予定。

東ドイツ（男子）、ソ連（女子）優勝

◇モスクワオリンピック記録

第22回オリンピック夏季大会ハンドボール競技は、7月20日から30日までモスクワのディナモスポーツホールとソコルニキ・スポーツパレスで行われ、本誌前号速報のとおり、男子（12カ国参加）は東ドイツが初優勝、女子（6カ国参加）は、ソ連がモントリオール大会につづいて金メダルを手中にした。全記録をまとめておこう。

男子

▼予選リーグ・A組

東ドイツ　21（6―9、15―8）17　スペイン
デンマーク　30（18―8、12―10）18　キューバ
ハンガリー　20（7―11、13―9）20　ポーランド
ポーランド　34（14―10、20―9）19　キューバ
東ドイツ　14（9―7、5―7）14　ハンガリー　引き分け
スペイン　20（9―9、11―10）19　デンマーク
ハンガリー　20（10―8、10―9）17　スペイン
ポーランド　26（9―5、17―7）12　デンマーク
東ドイツ　27（13―10、14―10）20　キューバ
スペイン　24（9―13、15―11）24　キューバ
ハンガリー　16（8―6、8―9）15　デンマーク
東ドイツ　22（11―9、11―12）21　ポーランド
ハンガリー　26（14―11、12―11）22　キューバ
スペイン　24（13―11、11―11）22　ポーランド
東ドイツ　24（13―9、11―11）20　デンマーク

【順位】①東ドイツ4勝1分②ハンガリー3勝2分③スペイン2勝1分2敗④ポーランド2勝1分2敗⑤デンマーク1勝4敗⑥キューバ1分4敗（3、4位は両国の対戦成績でスペインが上位）

○…東ドイツの1位は、誰もが予想したところだが、ハンガリーの2位には驚かされる。

ハンガリーは、西ドイツ棄権で急きょ出場が決まった国だが、伝統的な強さはあるものの、無敗とはすごい。

ダークホースと目されたポーランドとの引き分けで波にのり、つづく東ドイツ戦も互角にわたりあった。

この健闘は、ポーランド戦を残す東ドイツに大きなプレッシャーをかけたようだ。

東ドイツ×ポーランド戦は、今大会屈指の好ゲームで、特に残り6分22―18から猛迫したポーランドの反撃はすさまじかった。

東ドイツは辛くも逃げ切り金メダルへの挑戦権を固いものとしたわけだが、逆にポーランドは、大きなショックをうけ、スペイン戦も落とすことになった。

注目のキューバは、大会のムードになれるにしたがい、初出場とは思えぬ攻守を示し、大善戦といえた。

西側の代表格デンマークは、スペインに敗れて乱れ、1勝にとどまった。

▼同・B組

ユーゴ　22（12―10、10―8）18　アルジェリア
ルーマニア　32（18―3、14―9）12　クウェート
ソ連　22（13―8、9―7）15　スイス
ルーマニア　26（14―7、12―11）18　アルジェリア
ソ連　38（22―5、16―6）11　クウェート
ユーゴ　26（12―8、14―13）21　スイス
スイス　32（14―6、18―8）14　クウェート
ソ連　33（16―3、17―7）10　アルジェリア
ユーゴ　23（12―9、11―12）21　ルーマニア
スイス　26（11―7、15―11）18　アルジェリア
ルーマニア　22（9―15、13―4）19　ソ連
ユーゴ　44（24―5、20―5）10　クウェート
アルジェリア　30（11―14、19―3）17　クウェート
ルーマニア　18（9―6、9―10）16　スイス
ソ連　22（12―9、10―8）17　ユーゴ

【順位】①ソ連4勝1分②ルーマニア4勝1分③ユーゴ4勝1分④スイス2勝3敗⑤アルジェリア1勝4敗⑥クウェート5敗（1、2、3位は3カ国間の得失点差による　ソ連41―39、ルーマニア43―42、ユーゴ40―43）

○…期待どおりソ連、ルーマニア、ユーゴのスリリングな激突になった。

まずユーゴ×ルーマニア。ユーゴが先手をとり、後半5分13―9としたが、ルーマニアは、じわじわと反撃、8分同点、以後5回のタイスコアのあと、再びユーゴがリズムをつかんで残り3分21―19として逃げこんだ。

力を落としたかにみえたルーマニアだが、ソ連戦で鮮やかな立ちなおりを示す。

この試合もルーマニアは後手にまわり、後半18分12―16とされたのだが、みごとな追いあげで残り2分19―19、そのあと一気に3点をたたみかけ、劇的な逆転劇を演じた。

こうなるとユーゴが有利という評判が強まったが、さすがソ連、みごとに帳じりを合わせ、勝ち上った。

ソ連は、この試合「4点差以上の勝利」が決勝進出の条件。

一方、ユーゴは勝てばOKの優位に立っていたが、ソ連の気力はすばらしく12分4―2、22分10―7のあと、待望の4点差（11―7）。

しかし、ユーゴも必死に追いかけて、後半20分15―17、予断を許さなかったのだが、ソ連は残り3分、場内の大歓声の中で20―17、あと1分のところでついに21―17としたばかりか、タイムアップ寸前、1点を加えて、ダメを押した。

アジア代表のクウェートはやはり力不足、アルジェリアにも突き放された。

スペイン5位に食いこむ

▼順位決定戦▽11～12位決定戦

キューバ　32（16―13、16―11）24　クウェート

▽9～10位決定戦

デンマーク　28（15―9、13―11）20　アルジェリア

▽7～8位決定戦

ポーランド　23（11―10、9―10、2―1、1―1）22　スイス

▽5～6位決定戦

スペイン 24（12－7、9－14、…、2－1、1－1）23 ユーゴ

＜得点者＞【ス】ウリア6、セラーノ。G・ロペス各5、P・ロペス、ミリアン各3、アルビス2

【ユ】ムルコニア8、ルニッチ3コン、ヨボビッチ、ユリナ、ネリッチ各2、オルバン、クベトコビッチ、ネナジッチ、エレゾビッチ各1

▽3～4位決定戦

ルーマニア 20（11－7、9－11）18 ハンガリー

得	【ルーマニア】		【ハンガリー】	得
0	ムンティアヌ	DK	バルタロス	0
0	イオネスク	DK	コバクシス	0
3	ドミトル	FP	スザボ	2
3	ボロス	FP	コバクス	5
1	M・ボイネア	FP	S・バス	3
7	スティンガ	FP	フォドル	0
1	ボワナ	FP	スジラギイ	1
2	ドラウ	FP	ケニエレス	2
1	ビルトラン	FP	ヤノフスキー	1
0	フォルカー	FP	グバニイ	0
2	バシルカ	FP	コントラ	4
0	コスマ	FP	パル	0
20	（1）	PT	（3）	18

▽決勝戦

東ドイツ 23（10－10、10－10、…、1－1、2－1）22 ソ連

得	【東ドイツ】		【ソ連】	得
0	W・シュミット	GK	イチエンコ	0
0	ボワト	GK	トミン	0
0	ドライブロット	FP	マショリン	2
0	グルナー	FP	クシュニリュク	2
2	ベイヤー	FP	カルシャケビッチ	2
0	D・シュミット	FP	ベロフ	5
6	クルガー	FP	フェデューキン	2
3	ドエーリング	FP	アンピロゴフ	5
5	バール	FP	チェルニシェフ	0
3	ビーゲルト	FP	スク	1
4	ロスト	FP	キジャエフ	3
0	ヨウニッヒ	FP	ノビッキー	0
23	（5）	PT	（6）	22

○…決勝・東ドイツ×ソ連はソ連やや有利の予想だった。ところが、開始から東ドイツはピタリと食いつき、1点とられれば、すぐに返すという展開をみせた。

前半、3点差（ソ連リード）がついたのは3回だけ。

ソ連はそれでも余裕があった。いつか振り切れる、そんな自信が反撃されても、のぞいていた。

後半18分16－16のあと、ソ連はマショリン、クシュニリュクの連続ゴールで四回目の2点差、今度こそ、相手を振り切るつもりだった。

だが、東ドイツは粘る。そればかりか、残り2分、ロストで19－18と逆転したのだ。

ソ連の形相がかわる。29分19－19、しかし東ドイツは次の攻撃をビーゲルトが実らし20－19、全スタンドが総立ち、東ドイツの優勝は決まったかにみえた。

マイボールのソ連は、残り30秒強引な突進でPTを狙い、まんまと、それを得た。59分38秒、場内の大歓声のなかでアンピロゴフが決めた。延長。

起死回生の一投で、ソ連は息を吹き返したかにみえたが、東ドイツの驚くべきチーム力に、完全に気遅れしているのを、何人ものライターー、関係者が見破った。

東ドイツの優勝が10分間遅れただけ、そんなムードが隠せない場内だ。

はたして東ドイツは21－21のあとクルーガー（PT）、ベイヤーで23－21、そのあと反則退場者を課せられながら、必死の守りでソ連の反撃を1点（9分9秒）におさえ、ついに金メダルを手にしたのである。

○…3位以下では、スペインがユーゴを破り5位に食いこんだのが注目される。ユーゴは残り2分21－19としながら追いつかれ、延長後3－2で敗れたもの。スペインの闘志勝ちといえた。

予選を不本意に戦ったポーランドは、残り8分20－15の優位をキープできず、スイスに延長に引きずりこまれたが、辛くもカルジンスキーの強引技で逃げ切った。

女子（決勝リーグ）

ソ連 30（17－4、13－7）11 コンゴ

東ドイツ 16（8－6、8－4）10 チェコ

ユーゴ 19（8－4、11－6）10 ハンガリー

ソ連 17（8－4、9－3）7 チェコ

ハンガリー 39（19－6、20－4）10 コンゴ

東ドイツ 15（8－6、7－9）15 ユーゴ
引き分け

＜得点者＞【ド】ローテル7、リヒター3、クルーガー2、マッツ、ヴンデルリッヒ、ティエツ各1、

【ユ】ヴィスニッチ10、メルダン3、オグニエノビッチ、アナスタソフスキー各1

ソ連 16（9－5、7－7）12 ハンガリー

＜得点者＞【ソ】コシェルジーナ9スパレワ5、ツルスチーナ、マジエカイト各2

【ハ】ナジ4、レルケス、クスリク、ステルビンスキー各2、クサイボク、バダス各1

東ドイツ 28（15－4、13－2）6 コンゴ

ユーゴ 25（15－8、10－7）15 チェコ

ソ連 18（10－4、8－5）9 ユーゴ

＜得点者＞【ソ】カルローワ8、コシェルジーナ4、パルスチコーワオジノコーワ各2、ツルスチーナスバレワ各1

【ユ】キティッチ6、イエレミッチ、ボジノビッチ、ヴィスニッチ各1

チェコ 23（9－3、14－7）10 コンゴ

＜得点者＞【チ】クトコーワ9、ノバコーワ5、ブレザニョーワ、ポラセコーワ各2、ボレドビコーワラムリコーワ、ホラローワ、ネメソーワ、パブラソーワ各1

世界選手権出場国決まる

IHF（国際ハンドボール連盟）は、モスクワ・オリンピック終了後、一九八二年の世界選手権（男子第10回＝2月、西ドイツ、女子第8回＝12月、ハンガリー）の出場権が次の各国に与えられた、と発表した。

男子・東ドイツ、ソ連、ルーマニア、ハンガリースペイン、ユーゴ

女子・ソ連、ユーゴ、東ドイツハンガリー、

男子の本大会は16カ国で争われるが開催国・西ドイツ（前回世界選手権優勝）の出場が決まっており、西ドイツ誌は、本誌既報のとおり日本がアジア大陸第1代表に決定している。

男女とも残り出場国は来年の世界選手権グループで5カ国、アジアアフリカ、アメリカ大陸予選から各1カ国が推せんされる。アジア予選の詳細は未定。

【コ】ボベカ、クーリンカ、マラキ各2、オケムバ、オコーラ、ジムビ、マクアーラ各1

東ドイツ 19（10－6、9－3）9 ハンガリー

ユーゴ 39（23－4、16－5）9 コンゴ

ハンガリー 10（7－4、3－6）10 チェコ

引き分け

＜得点者＞【ハ】ナジ3、バダス、ステルビンスキー各2、レルケスクシク、アンギャル各1

【チ】クトコーワ4、ノバコーワ、ネメンー7、ホルチノーワ各2

ソ連 18（11－7、7－6）13 東ドイツ

＜得点者＞【ソ】スバレーワ8、コシェルジーナ4、カルローワ3、ツルスチーナ2、オジノコーワ1

【ド】リヒター6、マッツ3、ローテル2、クルーガー、クニッヒ各1

【順位】①ソ連5戦全勝②ユーゴ3勝1分1敗（得失点差40）③東ドイツ3勝1分1敗(33)④ハンガリー1勝1分3敗(6)⑤チェコ1勝1分3敗（マイナス13）⑥コンゴ5敗

◆得点ベストテン

〔男子〕

順位	氏名	国	得点
①	クレムペル	ポーランド	44
②	ツーリング	スイス	40
③	スティンガ	ルーマニア	36
④	アグラモンテ	キューバ	34
⑤	ユリナ	ユーゴ	33
⑤	バール	東ドイツ	33
⑤	ジェフォール	アルジェリア	33
⑧	コントラ	ハンガリー	30
⑧	ブレンデス	キューバ	30
⑩	アンピロゴフ	ソ連	29

〔女子〕

順位	氏名	国	得点
①	ヴィスニッチ	ユーゴ	33
②	キティッチ	ユーゴ	29
③	コシェルジーナ	ソ連	28
④	ナジ	ハンガリー	26
⑤	クトコーワ	チェコ	22
⑥	スバレーワ	ソ連	21
⑦	カルローワ	ソ連	19
⑦	クーリンカ	コンゴ	19
⑦	ローテル	東ドイツ	19
⑦	リヒター	東ドイツ	19

○…文句なしのソ連2連勝であった。

東ドイツ×ユーゴが星をつぶし合った日、ソ連は、若手のハンガリー戦を楽にとった。

ハンガリーは後半14分11－12まで追いあげたが、ソ連はすぐに立ちなおりトップに立った。

ソ連×ユーゴは、さらにソ連の強さを印象づけた。

9分早くも5－1としたあと、攻め手をゆるめず、6点差で前半を終えた。

ユーゴは、若手を揃えているだけに波にのるとめっぽう強いが、リズムをたたれると、なかなかペースを戻せない。

後半もソ連が押しまくり15分16－8と開いて、大勢が決まった。

こうなるとソ連の優勝争いの前に立ちはだかれるのは世界チャンピオン・東ドイツだけ。

最終戦で顔を合せた両者は、予想どおり火花を散らすスタートを切った。

先手はソ連がとったが、東ドイツはじわじわと追いこみ前半を1点差で折り返した。

ところが、後半になると、東ドイツ守備陣に考えられぬようなミスがつづき、あっという間に4点を失い、5点差がついた。

東ドイツの後半最初のゴールは8分後というのだから、この出だしのつまづきは痛かった。

その後は、両国ともチャンスを活かしあう攻撃で迫力のある展開になったが、ソ連には終始ゆとりがあり、ピンチらしい場面もなく東ドイツを押しのけた。

この結果、東ドイツは、ユーゴと同率になり、得失点差で3位と落ちこんだ。

○…ダークホース視されていたハンガリーは、総合力でやや見劣りがし、チェコも、もう一つパワーに欠けた。

韓国の代役・コンゴは、攻守ともにスピードがなく、東欧勢のかっこうのけい古台にされてしまった。

“意味ある東ドイツの優勝”

□…女子のソ連優勝は大方の予想どおりだったが、男子の東ドイツ制覇には、日本の関係者も驚きの表情だ。

東ドイツの強さは定評のあるところだが、どちらかといえば技巧的、パワーという点ではソ連、東ドイツ、ユーゴなどに一歩譲るとされていた。

それだけに、今回の成功は、大きな意味があり、パワー路線に限界のある日本など、東ドイツの勝利を歓迎している。

特に、竹野奉昭監督ら全日本男子のメンバーは、今春、東ドイツに遠征し、このチームと手合せしその強さ、巧さを身をもって味わってきただけに「秘かに東ドイツを広援してました」（竹野監督）。

予定どおり進めば、来年の東ドイツ交流は、相手側来日の番。

金メダルチームをまのあたりにするのも夢ではない。

男子強化部委員会開催

日本ハンドボール協会強化部男子強化委員会が、来る8月31日、17時より大阪・ザ・ルーテルにて開かれる。当面の課題は、ジュニア対策と全日本の今後にしぼられるであろう。

ジュニア対策では、ジュニア監督の木野氏が昨年のジュニア選手権後、その問題点を本誌にも投稿して指摘しているので、つっこんだ議題となろう。また、全日本はモスクワの出場権を得たものの、アジアで中国韓国にせまられており、画期的な対策が望まれる。

こんなとき便利な ダイワ キャッシュカード。

日常のお引き出しに…
カード1枚で現金自動支払機から手軽に現金が引き出せます。通帳もハンコもいりません。サイフがわりにご利用を…。

時間外のお引き出しに…
ダイワの外壁に面したキャッシュコーナーでは、平日午前8:45～午後6:00(土曜日は午前9:00～午後2:00)まで、またダイワマークのコーナーでは、平日午後5時、土曜午後2時まで現金が引き出せます。

ご出張やお買物の折に…
お出かけ先で現金がご入用になったときダイワの全店にあるキャッシュコーナーやダイワマークのコーナーがお役に立ちます。

給与のお引き出しに…
給与振込制をご採用の場合は、お給料日の朝からカードを使って引き出せます。奥さまもご自宅近くのダイワでどうぞ…。

ダイワキャッシュカードは総合口座(普通預金)をご利用の方におつくりしています。お気軽にお申込みください。

あなたと明日を
預金も
信託も…
大和銀行

ダイワマークのコーナーでは設置場所により、お取扱い時間が異なる場合があります。
また、日・祝日および設置場所の休業日はお取扱いしません。

ドクター群レポート

モスクワオリンピックチームの体力プロフィル

　本来許されるべきでないスポーツ世界への政治の介入によって第22回夏期オリンピックは異例の開催内容となったことは周知の通りである。我がハンドボール界にあってはモスクワを見指して自らの社会的立場を一時かたわらに置くような犠牲的な献身的な努力を続けた選手ならびに指導陣の精進の結果、幾多の試練をのりこえアジア予選を勝ち抜きモスクワへの出場権を得ることが出来た。この間の血と汗の結晶が日本の大会不参加という事態のため、ついに報われない結果となってしまったことに対してはげしい憤りを感じる一方で選手個々人に対しては慰めの言葉を知らない。

　ここでは激しかったアジア予選での勝利のあとのいっときの休養期間から本大会を目指して再始動しだした男子ナショナルチーム合宿期間中（一九八〇年三月二日〜八日・於大同特殊鋼）における選手の測定結果を示す。ここに示される値は本大会直前のものではなく、本大会を四カ月さきに控えた調整強化練習的意味合いをもつ合宿時の値ではあるが、そこでは本大会にエントリーされようという選手間の競争的努力もあり、その後さらに改善される余地を残してはいるが、一応モスクワオリンピック代表選手の体力のプロフィールを示す数値と考えられるものである。また合宿第一日目と第七日目の測定結果を比較することにより、この一週間程度の合宿で得られる体力内容についての成果も参考となろう。測定内容は我々が先に示したハンドボール基礎運動能力テストの項目と握力・背筋力・パワーならびに全身反応時間の測定である。パワーの測定は階段かけ上り法によるもので単位時間内の仕事量を求めたもので突進力をあらわしている。

　ナショナルメンバー20名の年令平均と標準偏差は24.8±2.2才（最高29〜最低20）、身長平均181.5±5.2cm（最高192〜最低173）、体重平均78.4±6.4kg（最高91.6〜最低69.6）であった。第一日目と第七日目の成績は表に示した通りである。

　第一日目と第七日目の成績の比較すなわち七日間の合宿で得られた体力的成果について両者を統計的に検定した結果は次の通りであった。成績が有意に向上した項目としては投力・協応力・短期スタミナ・12分間走であり、有意に低下したものは50m走であった。変化のなかった項目は背筋力・左右の握力・パワーであった。全身反応時間については有意な成績の向上はみられなかったがその内容を規定する動作開始時間が劣化を示したにもかかわらず筋収縮時間は短縮した。これらのことから今回行なわれた七日間の合宿においては筋力の向上は認められず、協調性の必要とされる項目や短期・長期のスタミナのような持久力が改善されたことから、この時期の合宿内容としては妥当なものであったと考えられる。すなわち筋力の向上はこのような短期間の合宿で望まれるべき性質のものではなく個々人の日常の努力でつみ上げるべきものである。50m走の劣化は疲労によるものと考えられるが、全身反応時間内の筋収縮時間の短縮化から考えるとこの疲労は刺激に対する反応により大きなウェイトをしめる性質のものであろう。

　残念ながら幻のオリンピックチームとなってしまったが、今回の男子ナショナルチームのプロフィールを示すことは次代の選手に対する基準線を引き出すことに充分な意義をもつと考える。世界のレベルは高く、アジアのレベルも急上昇してきている現状をみるときここに示した数値が最低のラインとなるような選手層になるように努力しなければならないことは明らかである。

（文責・阿部徳之助）

男子ナショナルチーム体力プロフィール（1980．3）

		背筋力 (kg)	握力(右) (kg)	握力(左) (kg)	投力 (秒)	協応力 (秒)	短期スタミナ (秒)	パワー (kgm/sec)	全身反応時間 (msce) A＝	動作開始時間 B＋	筋収縮時間 C	12分間走 (m)	50m走 (秒)
第1日目	平均値	166.2	59.4	55.0	4.4	28.7	102.1	136.4	322	178	144	2991	6.67
	標準偏差	13.4	6.4	5.5	0.3	5.1	4.3	9.6	32.7	23.4	20.1	164.2	0.28
	最高値	191.5	70.5	67.5	3.9	20.8	94.0	163	258	134	109	3295	6.39
	最低値	145.5	48.5	47.0	5.0	37.0	111.0	123	398	217	190	2690	7.57
第7日目	平均値	162.4	59.8	54.0	4.1	24.2	94.3	134.9	318	182	136	3083	6.96
	標準偏差	11.6	6.5	4.9	0.2	1.5	4.5	11.3	26.2	16.5	19.5	166.4	0.22
	最高値	184.5	70.5	67.5	3.9	21.8	87.0	165	270	150	112	3340	6.54
	最低値	164.5	51.5	45.5	4.5	26.6	107.0	119	365	206	181	2610	7.34
（差の検定 ☆ $p<0.05$ ☆☆ $p<0.01$）					☆	☆	☆☆					☆☆	☆☆

〜東日本学生選手権大会〜

筑波大、初の選手権制覇

女子は日体大が優勝

東日本学生選手権大会は、8月12日から16日の5日間、東京駒沢体育館と日体大健志台体育館で開催された。男子は21チーム・女子は6チームが参加し、最終日まで連日熱戦を繰り広げた。

男子は筑波大が日体大を破り、初の選手権を獲得した。関東春季リーグ戦一位の中大は準決勝で日体大に敗れ3位にとどまった。女子は日体大が残り6分から反撃し、逆転に成功して2度目の勝利を手中に納めた。

□男子予選リーグ

▽Aブロック

中央大（関東）33（19−7、14−15）22 東海大（関東）
東海大 41（17−11、24−12）23 芝浦工大（関東）
中央大 44（25−6、19−10）16 芝浦工大

【順位】①中大②東海大③芝工大

▽Bブロック

明治大（関東）34（18−8、16−11）19 順天大（関東）
日体大（関東）34（15−9、19−7）16 順天大
日体大 34（14−5、20−17）22 明治大

【順位】①日体大②明治大③順天大

▽Cブロック

慶応大（関東）41（20−5、21−4）9 神奈川大（関東）
早稲田大（関東）43（20−5、23−6）11 神奈川大
早稲田大 27（13−10、14−14）24 慶応大

▽Dブロック

明星大（関東）26（13−9、13−6）15 金沢大（北信）
筑波大（関東）42（20−2、22−4）6 金沢大
筑波大 33（16−8、17−2）10 明星大

【順位】①筑波大②明星大③金沢大

▽Eブロック

日本大（関東）31（17−4、14−6）10 金沢工大（北信）
青学大（関東）24（10−7、14−11）18 金沢工大
日本大 39（15−7、24−7）14 青学大

【順位】①日大②青学大③金工大

▽Fブロック

法政大（関東）35（20−12、15−8）20 東北学院（東北）
茨城大（関東）30（13−6、17−13）19 東北学院
法政大 24（9−11、15−6）17 茨城大

【順位】①法政大②茨大③東北学院

▽Gブロック

函館大（北海道）25（12−9、13−10）19 立教大（関東）
国士館大（関東）35（17−5、18−5）10 函館大
国士館大 36（19−1、17−3）4 立教大

【順位】①国士大②函館大③立教大

関東の強出そろう

□決勝トーナメント

▽準々決勝

国士館大 29（15−10、14−13）23 日本大
筑波大 36（16−13、20−11）24 法政大
日体大 22（9−10、13−7）17 早稲田大

○…国士×日大は、前半国士の古関が1ペナルティを含む7得点と活躍し、後半は三本松を中心に得点した。一方日大は攻撃にリズムがなく、単調な攻撃を繰り返した。

筑波×法政は、前半20分過ぎまで一点を争う好ゲームとなったが筑波の中島・河野・矢島が連続得点し、法政を引き離した。後半に入ると筑波大はスピードあふれる多彩な攻撃で法政を寄せつけなかった。

日体×早大は、前半早大・村崎の活躍などにより日体に10−9とリードした。ところが後半に入ると日体大は7分までに5連続得点し、一方井藤の好守に助けられ早大を10分間0点におさえた。その後早大にも反撃のチャンスはあったが、日体GK井藤の好守につぶされた。

決勝は筑波と日体で

▽準決勝

日体大 26（14−8、12−15）23 中央大

得	【日体】		【中央】	得
0	井藤	GK	鷲巣	0
0	阿部	GK	田中	0
2	成瀬	FP	松原	4
0	池田	FP	田口	9
9	溝部	FP	猪野	7
0	酒井	FP	藤井	1
7	平野	FP	尾上	2
6	村井	FP	鈴木	0
1	寺山	FP	塚田	0
0	金丸	FP	兼行	0
0	三浦	FP	庄司	0
0	佐々木	FP	実方	0
25	（1）	PT	（3）	20

（審・岡本・清水）

○…前半10分過ぎまで一点を争う好ゲームが展開された。その後日体は平野らが着々と得点したが中大は15分間に1点しかとれず、前半を8−14とした。後半に入ると中大の攻撃の歯車がかみ合い、17分過ぎのPTによる得点から6連続得点し、逆点に成功した。しかし日体も溝部・村井らのふんばりで連続得点し中大を引き離した。

筑波大 31（14−9、17−11）20 国士館大

得	【筑波】		【国士】	得
0	佐藤	GK	大山	0
0	宿輪	GK	矢内	0
3	河野	FP	栗田	5
4	矢島	FP	古関	3
2	大塚	FP	小林	1
2	田中	FP	佐川	0
2	山下	FP	三本松	0
2	高須	FP	佐藤	3
8	西山	FP	山口	1
0	酒井	FP	田中	4
3	中島	FP	石谷	0
5	古屋	FP	池田	3
31	（3）	PT	（0）	20

（審・青木・得丸）

○…国士は主砲三本松が負傷欠場したため活気がなく、筑波大に一方的に攻められた。立ち上り西山の得点で始まり、河野・古屋などが有効な速攻を決め主導権を握った。後半に入っても筑波の攻撃はやまず、コンスタントに得点した。一方国士は古関・栗田らが頑張ったが三本松の穴をうめるまでには到らなかった。

▽三位決定戦

中央大 29（18−12、11−12）24 国士館大

得	【中央】		【国士】	得
0	鷲巣	GK	大山	0
0	田中	GK	矢内	0
6	田口	FP	栗田	6
11	猪野	FP	古関	5
0	藤井	FP	小林	0
2	尾上	FP	佐川	0
2	鈴木	FP	佐藤	8
1	塚田	FP	出口	0
0	兼行	FP	田中	3
0	田中	FP	石谷	2
2	庄司	FP	遠藤	0
5	実方	FP	池田	0
24	（4）	PT	（1）	29

（審・岡本・得丸）

○…中大は猪野・田口・実方の大型コンビが前半から着々と得点を決め国士を引き離していった。

一方国士は佐藤が頑張りを見せ、前半10分で4得点するなどして中央を攻めたが前半は12—18で終った。後半に入ると猪野が4連続得得し、5分過ぎには8点差としたその後国士は栗田の活躍で追撃を計ったが大勢をくつがえすまでにはならなかった。

この試合中大の猪野が11得点するなど中大の攻撃力をいかんなく発揮したが、防御力の強化を望まれる試合内容でもあった。

筑波大第2回大会を制す

筑波大 26（14—10 12—13）23 日体大

得	【日体】		【筑波】	得
0	井藤	GK	佐藤	0
0	阿部	GK	宿輪	0
2	成瀬	FP	河野	3
2	池田	FP	矢島	5
5	溝部	FP	大塚	0
0	酒井	FP	田中	0
1	平野	FP	山下	4
6	村井	FP	高須	0
2	寺山	FP	西山	10
5	金丸	FP	中浦	0
0	三浦	FP	中島	4
0	小倉	FP	古屋	0
		（審・岡本・得丸）		
23（0）		PT		（2）26

〇…試合前の予想では、日体大の絶対有利がささやかれていたが試合は筑波が主導権を握った。

前半19分で筑波は9—4とリードしたが、日体は4連続得点し一点差につめ寄った。しかし筑波西山が4得点して前半を14—10とした。後半に入り日体は防御を固め3連続得点などして反撃をするが筑波・西山が大事な所で得点を決め、日体のリードを許さなかった

この試合日体は寺山が3回退場を命じられ、途中から試合に参加できなくなるなど7個の警告、退場を受けた。日体の若さが敗因と言っても過言ではない一戦であったが、今後の努力と活躍を期待したい。

女子

□予選リーグ（関東リーグチームのみ出場）

▽Aブロック

日女体大 14（7—2 7—9）11 東学芸大

日体大 22（10—8 12—5）13 日女体大

日体大 29（16—2 13—6）8 東学芸大

【順位】①日体大②日女体③東学芸大

▽Bブロック

東女体大 43（21—2 22—2）4 横浜国大

筑波大 41（21—4 20—3）7 横浜国大

筑波大 16（8—0 8—7）7 東女体大

【順位】①筑波大②東女体③横国大

〇…Aブロックでは、予想通り日体大が圧倒的な力を発揮して1位で決勝トーナメントに進んだ。

また春季リーグ戦で日女体を破った学芸大は、元気なく3位となった。

Bブロックでは筑波大が完璧な試合はこびで一位になった。また関東2部代表の横国は、一部のカべを見せつけられる結果となった。

女子も日体筑波で決勝

▽準決勝

日体大 16（8—5 8—7）12 東女体大

得	【東女】		【日体】	得
0	高松	GK	藤井	0
0	田中	GK	小野	0
6	藤本	FP	鈴木紀	1
0	伊藤	FP	鈴木早	3
0	小野森	FP	石井	3
2	坂本	FP	岩田	0
2	浜村	FP	大崎	2
0	藤田	FP	加藤	2
2	鈴木	FP	後藤	4
0	増子	FP	吉田	0
0	妹川	FP	天野	0
0	宮脇	FP	宇賀神	0
		（審・得丸・佐藤）		
12（3）		PT		（2）12

〇…日体のペナルティによる得点で試合は始まった。前半5分までは内容のある試合となったが、その後両チームともミスが目立った。東女体は藤本が一人気をはいたが前半の20分間に1点しかとれず日体に8—5とリードされた。

後半17分東女は藤本の得点で同点に追いついたが、日体に4連続得点を許してしまった。

筑波大 25（11—4 14—6）10 日女体大

得	【日女】		【筑波】	得
0	菅原	GK	伏見	0
0	藤野	GK	久保	0
1	鈴木	FP	藤岡	1
0	桑代	FP	畠山	6
0	伊勢	FP	小林	0
0	石井	FP	吉沢	1
0	中山	FP	岩本	3
4	大森	FP	上水流	3
3	下山	FP	小西	1
1	渡辺	FP	中山	2
1	金井	FP	河原	4
0	矢沢	FP	鈴木	4
		（審・福井・清水）		
10（0）		PT		（5）25

〇…筑波大は前半から下級生河原などの好プレーにより加点した一方日女は筑波大の防御をなかなか破れず、無理体勢からのシュートを余義なくされ、筑波久保の好守に阻まれた。

後半は筑波大の一方的な攻めに終止した。

▽5位決定戦

東学芝大 27（13—2 14—2）4 横浜国大

〇…やはり一部の壁は厚く、東学大の一方的な試合となった。

関東2部チームの今後の課題を明確にした今大会であったが、横浜国大にとって貴重な経験となり今後のプレーに反映されるよう望まれる。

▽3位決定戦

東女体大 19（11—5 8—5）10 日女体大

得	【日女】		【東女】	得
0	菅原	GK	高松	0
0	藤野	GK	田中	0
0	鈴木	FP	藤本	5
1	桑代	FP	伊藤	0
0	伊勢	FP	小野森	1
2	石井	FP	坂本	1
0	中山	FP	浜村	1
3	大森	FP	藤田	0
2	下山	FP	鈴木	8
1	大島	FP	増子	3
1	金井	FP	妹川	0
0	矢沢	FP	毛利	0
		（審・清水・天野）		
10（1）		PT		（5）19

〇…東女体は、先取点を許したものの、藤本・鈴木・増子らの活躍で着実に点差を広げていった。

一方日女は東女のディフェンスを打ち破れず、速攻を許した。後半に入っても日女は決め手を欠き東女を追撃できなかった。

日体大が連続優勝

▽決勝戦

日体大 16（8—8 5—5 …… 2—1 1—1）15 筑波大

得	【筑波】		【日体】	得
0	伏見	GK	藤井	0
0	久保	GK	小野	0
0	藤岡	FP	鈴木紀	3
4	富山	FP	鈴木早	2
1	吉沢	FP	石井	2
0	岩本	FP	岩田	0
0	上水流	FP	大崎	2
0	小西	FP	加藤	1
0	中山	FP	後藤	6
1	河原	FP	吉田	0
2	山口	FP	天野	0
7	鈴木	FP	宇賀神	0
		（審・青木・清水）		
15（6）		PT		（5）16

〇…前半は一点を争うシーソーゲームで両校とも一歩もひかず、同点で終えた。後半に入ると筑波はジリジリと得点を広げ、17分には4点差とリードした。しかし日体大はペナルティをきっかけに反撃し、延長にもちこんだ。

延長に入ると日体大の動きが良くなり、日体大有利のまま16—15で辛勝した。

◇　☆　◇　☆

◇　☆　◇　☆

◇　☆　◇　☆

広島工大、波に乗る

中四国学生

〔順位のみ前号既報〕中四国学生春季リーグ戦は、5月31日、6月1日の2日間、広島県立体育館において、男子1、2部の試合が行われた。

1部は、昨秋1部に復帰したばかりの広島工大が、緒戦に強豪山口大に引き分けたことで、波にのり、残り試合を全勝、初優勝を決めた。

戦前の予想では、広島大と山口大が優勝を争うとみられていたが伏兵広工大が脚力を生かした粘りある攻撃で両校を苦しめた。

広工大―山口大の試合は前半攻守にバランスがつかめない山口大に対し、広工大は鋭いカットインからPTを誘うなどして着実に加点。後半に入って山口大も追い上げたが連続得点を許さず引き分けに持ち込んだ。広工大―広大は最初から一進一退の攻防を見せたが後半終了直前に相手速攻を好守して逆に押し込んだ広工大が勝ち優勝を深めた。また昨シーズン優勝の広大福山は主力選手の卒業で大きく後退した。

2部では岡山大が香川大と引き分けたものの他の大学を順当に下して優勝を決めた。女子は6月号既報のとおり山口大が勝っている

◇男子一部

広工大 21（10―13、11―8）21 山口大
広工大 22（14―11、8―10）21 島根大
広工大 17（7―6、10―9）15 広島大
広工大 22（8―4、14―5）9 広大福山
山口大 40（21―9、19―5）14 島根大
山口大 18（7―12、11―6）18 広島大
山口大 25（12―9、13―4）13 広大福山
広島大 30（17―8、13―8）16 島根大
広島大 19（11―7、8―8）15 広大福山
広大福山 18（6―5、12―3）8 島根大

【順位】①広工大3勝1分②山口大2勝2分③広島大2勝1分1敗④広島大福山1勝3敗⑤島根大4敗

▽同2部

岡山大 24―23 修道
松山商大 34―26 愛媛大
修道 27―24 愛媛大
松山商大 25―21 香川大
修道 23（分）23 香川大
修道 22―18 松山商大
岡山大 26―15 松山商大
岡山大 17―9 愛媛大
香川大 28―17 愛媛大
岡山大 19（分）19 香川大

【順位】①岡山大3勝1分②修道2勝1分1敗③松山商大2勝2敗④香川大1勝1分1敗⑤愛媛大4敗

徳島大医学部が初優勝

西日本医科学生選手権

第2回西日本医科学生選手権（第32回西日本医科学生総合体育大会ハンドボール競技）は、7月29日から31日まで山口大工学部体育館に11校が参加して行われ徳島大医が、2連勝を狙う金沢医大を押しまくり初優勝を飾った。

▽1次予選・甲組

鳥取大医 15―5 愛知医大
徳島大医 23―6 産業医大
愛知医大 9―8 大阪医大
徳島大医 19―10 鳥取大医
大阪医大 9―7 産業医大

▽同・乙組

滋賀医大 19―8 和歌山県医大
金沢医大 15―13 京大医
山口大医 17―16 富山医薬大
金沢医大 15―6 滋賀医大
山口大医 12―11 京大医
富山医薬大 16―4 和歌山県医大

▽2次予選（4試合）

徳島大医 19―4 滋賀医大
大阪医大 13（延）11 富山医薬大
鳥取大医 16―7 山口大医
金沢医大 21―7 愛知医大

▽決勝トーナメント・1回戦

徳島大医 20（9―4、11―4）8 鳥取大医
金沢医大 18（11―6、7―2）8 大阪医大

▽3位決定戦

鳥取大医 22（11―8、11―4）12 大阪医大

▽同決勝

徳島大医 20（10―3、10―3）6 金沢医大

自衛隊大会始まる

第12回全日本自衛隊ハンドボール選手権大会は9月5日から9日までの4日間、東京駒沢オリンピック公園体育館において開催される。

■組合せ 成年男子

下総（海・千葉）
鹿屋（海・鹿児島）
徳島（海・徳島）
岩国（海・山口）
北熊本（陸・熊本）
三宿（統合・東京）
久里浜（陸・神奈川）
古河（陸・茨城）
木更津一ヘリ（陸・千葉）
宇都宮（陸・栃木）
東立川（陸・東京）
仙台（陸・宮城）
神町（陸・山形）
福島（陸・福島）
勝田（陸・茨城）

この他、女子の部・少年の部・壮年の部が開催される。

前原、沖縄に優勝もたらす

九州高校選手権

第30回九州高校選手権は、7月24、25の両日、沖縄・奥武山体育館などに男子16、女子17校が参加して行われた。

男子は、今年も福岡勢が強味を示し、前年1位の久留米工大付と一昨年1位の小倉西が決勝で対戦激しい点のとりあいとなるスケールの大きい試合になったが久留米工大付が前半のリードを活かして2年連続5度目の優勝を遂げた。

女子は、地元・前原が強豪を破って勝ち進み大会ムードを盛りあげた。勢いにのる前原は、決勝でも神埼農（佐賀）を押しまくって快勝、初の栄冠を握った。沖縄代表の優勝は男女を通じて初めてである。

▽男子1回戦

大分電波（大分）22―20 九州学院（熊本）
久留米工大付（福岡）22―19 小林（宮崎）
薩南工（鹿児島）31―17 長崎日大（長崎）
前原（沖縄）25―16 神埼（佐賀）
瓊浦（長崎）27―21 都城泉ヵ丘（宮崎）
浦添（沖縄）32―13 佐賀農（佐賀）
マリスト（熊本）26―24 大分東（大分）
小倉西（福岡）29―17 笠沙

▽同準々決勝

久留米工大付 19（10―8、9―8）16 大分電波
前原 26（13―6、13―4）20 薩南工
小倉西 25（12―6、13―4）10 マリスト
浦添 29（18―4、11―10）14 瓊浦

▽同準決勝

久留米工大付 23（14―8、9―10）18 前原
小倉西 25（14―7、11―11）18 浦添

▽同決勝

久留米工大付 28（15―9、13―12）21 小倉西

▽女子1回戦

松橋（熊本）22―7 島原農（長崎）
大分東（大分）13―9 東海大五（福岡）
鹿児島純心女 12―11 小林商（宮崎）
神埼農（佐賀）11―9 首里（沖縄）
前原（沖縄）13―5 佐賀女（佐賀）
佐世保商（長崎）17―9 佐賀関
熊本市立（熊本）15―8 財部（鹿児島）
筑紫女（福岡）16―15 西都商（宮崎）

▽同準々決勝

松橋 21（11―4、10―5）9 大分東
神埼農 18（9―3、9―7）10 鹿児島純心女
前原 17（6―2、11―4）6 佐世保商
熊本市立 13（6―7、7―3）10 筑紫女

▽同準決勝

神埼農 21（9―7、9―11、…、2―1、1―1）20 松橋商
前原 18（11―3、7―6）9 神埼農

▽同決勝

前原 12（7―3、2―6、…、2―2、1―0）11 熊本市立

御坊商工、明石が初の栄冠

近畿高校選手権

第23回近畿高校選手権は、7月21日から23日まで彦根工高グラウンド（滋賀）で行われ、男子は御坊商工（和歌山）が桃山学院（大阪）を破り初優勝、和歌山代表の優勝は9年ぶり2度目のこと。

女子は、明石（兵庫）が、春日丘（大阪）にせり勝って初優勝、3連勝を狙っていた男子・此花学院（大阪）は準々決勝で、女子・夙川学院（兵庫）は準決勝で、それぞれ退いた。

報告されている準々決勝以降の成績は次のとおり。

▽男子準々決勝

摂津（大阪）7―5 此花学院（大阪）
御坊商工（和歌山）18―8 洛星（京都）
桃山学院（大阪）21―8 粉河（和歌山）
都島工（大阪）14―12 大阪学院（大阪）

▽同準決勝

御坊商工 12（6―3、6―7）10 摂津
桃山学院 7（5―4、2―2）6 都島工

▽同決勝

御坊商工 13（8―6、5―4）10 桃山学院

▽女子準々決勝

夙川学院（兵庫）14―5 御坊商工（和歌山）
春日丘（大阪）15―5 東宇治（京都）
明石（兵庫）12―9 彦根西（滋賀）
枚方（大阪）9―6 大津商（滋賀）

▽同準決勝

春日丘 11―4 夙川学院
明石 11―8 枚方

▽同決勝

明石 10（5―5、5―2）7 春日丘

ブロック中学校大会

◆第2回東海（第9回東海中学ハンドボール大会）

▽男子1回戦

汐路（愛）19―11 加納（岐）
東員（三）20―6 清水第五（静）
今尾（岐）21―9 白子（三）
豊橋中部（愛）22―10 鷹岡（静）

▽同準決勝

汐路 16（4―5、12―4）9 東員
今尾 18（9―6、9―10）16 豊橋中部

▽同決勝

汐路 14（7―6、7―6）12 今尾

▽女子1回戦

春日井中部（愛）20―5 日枝（岐）
東員（三）11―3 静岡東（静）
加納（岐）10―5 田子浦（静）
美川（愛）10―7 菰野（三）

▽同準決勝

春日井中部 14（8―4、6―3）7 東員
加納 13（8―6、5―5）11 美川

▽同決勝

春日井中部 12（5―6、4―3、…、1―0、2―1）10 加納

静岡代表にポスト・ク

栃木国体県予選記録②

（報告会のみ）

▼青森

▽成年男子１回戦
大湊航空隊25―21十和田フ
野辺地ク 23―13 尾上ク
▽同準決勝
七戸ユニオン29―13大湊航空隊
青森ク 26―16 野辺地ク
▽同決勝
青森ク 16―15七戸ユニオン
▽少年男子準々決勝
青森商高 24―9 青森高
七戸高 20―19 鰺ケ沢高
柏木農高 22―15 野辺地工高
野辺地高 22―6 三本木高
▽同準決勝
青森商高 21―15 七戸高
野辺地高 25―10 柏木農高
▽同決勝
野辺地高 14―13 青森商高
▽同女子１回戦
七戸高 9―2 三本木高
野辺地高 36―3 青森東高
▽同準決勝
青森西高 9―5 七戸高
青森中央高 8―6 野辺地高
▽同決勝
青森中央高 8―7 青森西高

▼千葉

▽成年男子１回戦
千葉教職員ク29―23出光千葉
馬立ク 28―15 海自館山
千葉教員 59―13日産石油化学
▽同準決勝
海自下総 35―32千葉教職員ク
千葉教員 28―13 馬立ク
▽同決勝
千葉教員 30―14 海自下総
▽同女子準決勝
千葉ク 22―3 昭和学院ク
佐原ク 8―7 水郷ク
▽同決勝
千葉ク 28―5 佐原ク
▽少年男子準々決勝
県高校選抜40―2 生浜高
船橋旭高 19―12 流山中央高
千葉南高 24―9 我孫子高
東邦高 13―12 東葛飾高
▽同準決勝
県高校選抜28―5 船橋旭高
千葉南高 13―10 東邦高
▽同決勝
県高校選抜37―4 千葉南高
▽同女子予選ラウンド準決勝
佐原女高 12―8 生浜高
東邦高 12―5 流山中央高
▽同決勝
東邦高 10―9 佐原女高
▽同代表決定戦
県高校選抜19―9 東邦高

▼静岡

▽成年男子準々決勝
清商ク 13―9 静岡教員ク
静岡教員団42―14修善寺送球塾
富士ク 22―17 気賀ク
静農ク 25―11 御殿場ク
▽同準決勝
清商ク 16―14 静岡教員団
静農ク 16―7 富士ク
▽同決勝
清商ク 16―14 静農ク
▽同女子１回戦（１試合）
清商ク 7―6 清水西ク
▽同準決勝
ポスト・ク6―4 城北ク
清商ク 8―6 二俣ク
▽同決勝
ポスト・ク8―5 清商ク

▼石川

▽成年男子準々決勝
金沢市役所30―4 小松ク
県工ク 19―7 七尾ク
寺井ク 16―12レインボウ倶
あすなろク32―9 津幡ク
▽同準決勝
金沢市役所17―8 県工ク
あすなろク33―11 寺井ク
▽同決勝
金沢市役所24（延）23 あすなろク
▽少年男子準々決勝
小松工高 25―8 県工高
星稜高 26―18 錦丘高
二水高 18―11 松任高
小松高 28―7 大聖寺高
▽同準決勝
小松工高 28―3 星稜高
小松高 27―14 二水高
▽同決勝
小松工高 16―11 小松高
▽同女子１回戦
短大高 7―1 松任高
▽同準決勝
短大高 8―4 星稜高
小松市女高26―1 金沢商高
▽同決勝
小松市女高32―2 短大高

▼山口

▽成年男子準々決勝
山口教員団34―23 徳山曹達
三井石油 30―23 出光興産
下松ク 20―17 興亜石油
徳山ク 41―19 とおしろう
▽同準決勝
山口教員団35―20 三井石油
徳山ク 36―28 下松ク
▽同決勝
徳山ク 30―19 山口教員団
▽同女子１回戦
岩国ク 8―6 山口ク
▽同決勝
徳山ク 17―13 岩国ク
▽少年男子準々決勝
岩国工高 35―6 小の田工
下関中央工高33―17 徳山高
岩国高 19―13 下松高
下松工高 27―8 宇部工高
▽同準決勝
岩国工高 22―15下関中央工高
下松工高 28―18 岩国高
▽同決勝
岩国工高 23―15 下松工高
▽同女子準々決勝
岩国・徳山連合9―3徳山高
岩国商高 14―12 徳山工高
徳山商高 16―3 美祢中央高
徳佐高 8―7 防府商高
▽同準決勝
岩国・徳山連合12―8岩国商高
徳山商高 14―6 徳佐高
▽同決勝
岩国・徳山連合12―7徳山商高

▼島根

▽成年男子代表決定戦
松江ク 28―17 江津ク
▽同女子代表決定戦
松江ク 40―8 江津ク
▽少年男子１回戦
松江南高 40―11 松江農高
羽須美高 29―12 浜田水産高
飯南高 26―12 江津高
▽同準決勝
松江工高 29―29 松江南高
羽須美高 35―11 飯南高
▽同決勝
松江工高 18―11 羽須美高
▽同女子代表決定戦
松江一高 16―7 浜田商高

編集委員会よりお詫び

現在、機関誌ハンドボールの発行が一週間程度遅延致しております。読者の皆様には多大な御迷惑をおかけし、お詫び申し上げます。今後一層の努力をし、毎月一日発行を目差す所存です。

編集委員長　平岡秀雄

勝利の伝説シェブロンラインは最高級品の証。

"Chevron-Line" ist der Beweis höchster Qualität.

勝利をめざすなら、選ぶべきだ!

——無言の威圧感を与えるヒュンメル——

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一八九号
昭和四十年六月七日第三種郵便物認可
昭和五五年八月二十五日印刷
昭和五五年九月一日発行
[illegible]都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五拾円(年間購読料三千三百円)